

# CONTENTS

## Chapter 1

	大学における入学から卒業まで	001
	教務課案内	002
学 籍	各種 届出・願出	003
	学生証と学籍番号	004
	通学・学割	006
	学籍異動 (休学・退学・除籍 等)	007
	授業料(等)の納付について	008
修 学	Portal-OSU(ポータルシステム)とは	011
	学期と授業時間、試験時間	013
	履修申請	014
	授業 (休講・補講・欠席 等)	017
	定期試験	019
	追試験	021
	成績	022
	各種証明書	各種証明書 026

## Chapter 2 15P 入学生

カリキュラム、履修についての注意等 030

## Chapter 3 13P 編入生

カリキュラム、履修についての注意等 050

### 【 Web版冊子 】

#### 学生便覧

本学の規程を記したものです。

- ①大阪産業大学学則
- ②大阪産業大学学部通則
- ③大阪産業大学修学規程
- ④大阪産業大学学費納入規程
- ⑤諸規程

#### Webシラバス (授業計画)

講義(授業)の計画や、内容の概要を記したものです。

#### ※閲覧方法

大阪産業大学トップページ⇒在学生の皆様へ⇒  
⇒教務課⇒Web版冊子・配布物⇒学生便覧システム  
↳Webシラバス

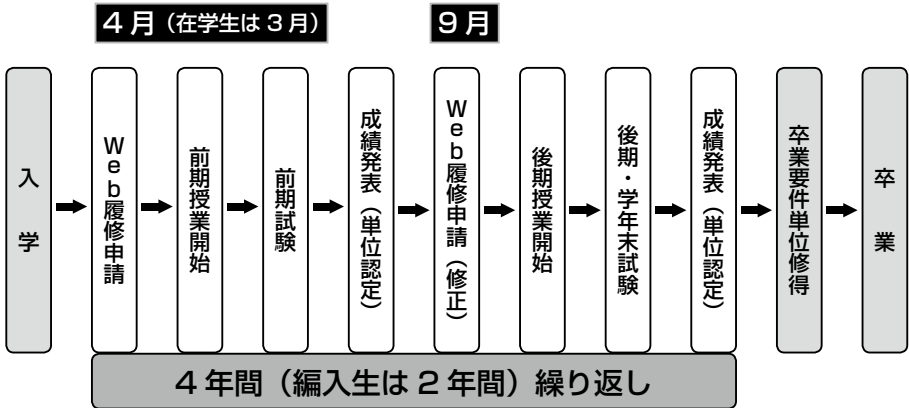


**Chapter**

**0**

**1**

## 大学における入学から卒業まで



### ■履修申請とは

当該年度に単位を修得しようとする授業科目を申し込むことです。

履修登録はWeb履修申請システムにて4月(在學生は3月)、9月(登録および修正を含む)の年2回です。

4月の履修登録では原則、各自の学習計画に基づき、当該年度に必要な科目を全て登録します。

### ■履修と修得について

「履修」とは、単位を修得するために、教育課程に定められた授業科目を登録し学ぶ事です。

「修得」とは、授業科目を学んだ結果、合格の評価を受け単位認定されることです。

■4年(編入生は2年)以上在学し、卒業要件単位を修得することで卒業が可能となります。

<b>教務課案内</b>	履修、時間割、授業などについての質問、相談を受け付けます。	
<b>場 所</b>	本館（11号館）1階（中央キャンパス）	
<b>受付時間</b>	<p>平日 9:00～17:00 ※夏期休暇中は10:00～16:00（土曜日はお休みです）</p> <p>土曜日 9:00～12:30</p> <p>※日曜・祝日（授業実施日を除く）、夏期、冬期および一斉休業期間はお休みです。</p>	
<b>連絡先</b>	<p>大阪産業大学 教務部 教務課</p> <p>所在地 〒574-8530 大阪府大東市中垣内3-1-1</p> <p>電話 072-875-3001（代表）</p> <p>FAX 072-871-9856</p> <p>E-mail kyoumuka@cnt.osaka-sandai.ac.jp</p>	
<b>業務内容</b>	学 籍	休学、退学、再入学、転籍（学科変更）、留学生在籍確認
	授 業 料	授業料（延納、猶予）
	履修・時間割・授業	履修申請、授業、授業の欠席、休講、補講、教室変更、シラバス
	試 験 ・ 成 績	定期試験の実施、追試験の実施、成績発表
	各 種 申 込 ・ 届 出	学籍に関する届け出 履歴変更に関する届け出（住所、氏名、連絡先の変更等）
	各 種 証 明 書 発 行	成績、卒業見込、在学、卒業 等
	学 生 便 覧	<p>大阪産業大学学則等の基幹規程の抜粋が掲載されている「学生便覧」は、大学のホームページに掲載しています。</p> <p>大阪産業大学トップページ⇒在学生の皆様へ⇒教務課 ⇒Web版冊子・配布物⇒「学生便覧」よりご確認ください。</p>

各種 届出・願出

学籍に関すること		詳細 ページ	手続きに必要なもの ・ 備考
住所異動届 (本人・保護者) ※ 1		4～5	学生証
氏名等変更届 (本人・保護者) ※ 1			住民票または戸籍謄本、印鑑
学生証再発行			手数料：1,000円
休学願 ※ 1		7～8	印鑑、疾病等が理由の場合は診断書
退学願 ※ 1			印鑑、学生証 (返還のため)
復学願			印鑑
再入学願 (再入学試験)			除籍、退学後3年未満の方が対象
通学・学割に関すること		詳細 ページ	備考
実習用通学証明書		—	実習、卒業研究等で学外に通学する場合に使用します。 (担当教員の申請用依頼文書が必要)
学生旅客運賃割引証 (学割証)		6	JRのみ使用可
授業料・教育環境充実費の納入に関すること		詳細 ページ	手続きに必要なもの ・ 備考
授業料 (等) 延納願		9～10	印鑑 (手続期間を確認してください。)
授業料 (等) 納入猶予願			
除籍取消願			
授業料 (等) 納入および除籍猶予願			
授業に関すること		詳細 ページ	手続きに必要なもの ・ 備考 ・取扱部署 (詳細は取扱い部署に確認してください。)
欠席届	下記以外の欠席の場合	19	印鑑、公的な証明書 (疾病等の理由の場合は診断書、冠婚葬祭の場合は参列した証となるもの、葬儀の場合は会葬礼状等) (発行部署：教務課)
	就職活動に関する欠席 (採否に関わる内容に限る)	—	印鑑、就職活動証明書 (発行部署：キャリアセンター)
公欠届	教職関連の欠席 (教育実習・介護等体験等)		公欠届 (教職関連) (発行部署：教務課教職係)
	課外活動に関する欠席	—	課外活動公欠届 (発行部署：学生生活課)
	就職ガイダンス出席に関する欠席		就職ガイダンス・就職対策試験出席証明書 (発行部署：キャリアセンター)
試験に関すること		詳細 ページ	手続きに必要なもの ・ 備考 (その他追試験受験可否については詳細ページを確認すること)
試験用臨時学生証 (試験期間中のみ)		20	500円 / 1通 (当日限り有効)
追試験受験願	申請料：1,000円の場合 / 1科目	21	疾病に関する場合は診断書
			葬儀の場合は会葬礼状 等
			課外活動に関する場合は、追試験受験に該当する大会等に 出場した証となる書類
	申請料：無料の場合		公共交通機関の遅延の場合は延着証明書
	その他		採否に関わる就職活動の場合は就職活動証明書 裁判員制度の任務遂行の場合は証明できる書類 その他特別な理由のある場合は別に審議します

※ 1 奨学生の方は、学生生活課にも連絡をしてください。

学生証と  
学籍番号

学生証は、本学の学生であることを証明するものです。他人に貸与あるいは譲渡することはできません。

本学で行う定期試験の際には、受験票となりますので、忘れた場合は受験できません。また、教職員から呈示を求められた時は、いつでも呈示できるように常に携帯し、紛失・破損等のないよう取扱いには十分注意してください。

学生証の記載事項に変更があった場合は、直ちに教務課に届け出て訂正を受けなければなりません。

学生証



(学生証・表面)

学籍番号

学籍番号は入学時に決定します。学籍番号は、入学した学科(学部)に在籍する限り変わることはありません。

在学(在籍)期間はもとより、卒業後もそのまま残る固有の番号です。

学内における事務処理は、すべてこの学籍番号によって行われますので、正確に覚えましょう。

学籍番号は6桁の数字とアルファベットで表示します。

(例) 15 B 001  
入学年度 学科コード 個人番号

アルファベットは、学部・学科を表し、コードは下記のとおりです。

学 部	学 科	学科コード
人間環境学部	文化コミュニケーション学科	P
	生活環境学科	V
	スポーツ健康学科	T
経営学部	経営学科	B
	商学科	C
経済学部	学科配属をしない1・2年次 (3年次より下記の学科配属を行います)	E
	経済学科・国際経済学科	E
デザイン工学部	情報システム学科	H
	建築・環境デザイン学科	M
工学部	機械工学科	F
	交通機械工学科	G
	都市創造工学科	K
	電子情報通信工学科	L

科目等履修生	15 C _ 0 1 入学年度 コード 個人コード	※_には下記のコードが入ります。 人間環境学部：P 工学部：F 経営学部：B デザイン工学部：H 経済学部：E
短期留学生	15 F _ 0 3 入学年度 コード 個人コード	

いつ必要 なのか	◎試験を受けるとき      ◎授業で出席確認を行うとき      ◎履修相談をするとき ◎図書館を利用するとき      ◎通学定期を購入するとき ◎各種証明書の発行申請（証明書自動発行機パピルスメイト）を使用するとき
有効期限	・入学後 4 年間（編入生は 2 年間）です。 ・5 回生以上に在籍する学生は、毎年度末に学生証の更新が必要になります。 2 月中旬以降に教務課で更新の申し込みをしてください。3 月末に旧学生証と無料で引き換えます。なお期間外の更新は有料（1,000 円が必要）です。
再発行をする時 (紛失した場合)	学生証を紛失・破損した場合は教務課に届け出て再発行手続きを行ってください。 再発行は有料（1,000 円が必要）です。 学生証を紛失した場合は、直ちに警察に届け出て、教務課で再交付を受けてください。 本学学内で紛失した場合は、学生生活課にお問い合わせください。
学生証の返還	以下の場合は、学生証を速やかに教務課へ返還してください。 1. 卒業、退学、除籍により学籍を離れたとき。 2. 学生証の再交付を受けた後に旧学生証が見つかったとき。
氏名、住所等の 変更について	本人および保護者の以下の内容が変更の場合は、速やかに教務課まで届け出てください。 携帯電話番号、住所、自宅電話番号、氏名、本人の通学区間
学生証裏シールの 更新について	当該年度の在籍を証明する大切な証明書です。裏シールは通学定期購入の有無にかかわらず、全員年度ごとに更新が必要です。 当該年度のシールを貼付していない学生証では、通学定期も購入できません。 新年度の裏シールは、毎年 3 月下旬から教務課で交付しますので、忘れずに更新してください。

2015年度	学籍番号	氏名	
在籍確認票	現住所		
通学区間	～	間	～
	～	間	～
発行年月日	通用期間	発行駅	記事
乗通	ヵ月		
車学	ヵ月		
券定	ヵ月		
控期	ヵ月		
	ヵ月		

大阪産業大学

(学生証・裏面)



<b>通学・学割</b>	<p>通学定期・学割証は正しく使いましょう。</p> <p>※こんな時に摘発されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の定期券・学割証等を友人等に貸したとき</li> <li>・有効期限切れの定期券・学割証を使用したとき</li> <li>・記入事項（日付など）を書きかえた時</li> <li>・自宅および大学の最寄駅以外の区間で購入し使用したとき</li> </ul>
<b>通学定期</b>	<p>通学定期購入の際は、学生証の裏面にある通学区間（路線別）を記入し、教務課で確認印を受けてから、通学証明書として使用することができます。各交通機関の購入窓口で学生証を提示して購入してください。（交通機関によっては、別途通学証明書が必要となる場合があります。各交通機関に確認し、必要な場合は、教務課で押印を受けてください。）</p>
<b>通学区間</b>	<p>通学区間の証明は、現住所（学生証に記載されている住所）の最寄駅から、大学の最寄駅までの最短距離に限りです。</p> <p>なお、通学以外の目的（アルバイト）のために通学証明することはできません。また、通学区間の変更や通学定期乗車券控の記入欄がなくなった場合は、教務課で裏面シールの追加発行と確認印を受けてください。</p>
<b>通学区間の変更</b>	<p>住所変更等で通学区間および路線に変更があった場合は、教務課に申し出て、確認印を受けてください。</p>
<b>学生旅客運賃 割引証</b>  <b>使用上の注意</b>	<p>学割証（学校学生生徒旅客運賃割引証）とは、片道乗車区間の距離が営業キロで100kmを超える区間を乗車する際には片道乗車券が、600kmを超える場合には往復割引乗車券が2割引となるものです。（JRのみ）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学割証の有効期間は発行の日から3ヵ月です。</li> <li>・証明書自動発行機（パピルスメイト）で即日交付することができます。</li> </ul> <p>学割証を不正に使用した場合には、使用者は3倍の運賃を追徴され、以後の発行を停止されることがあります。また、本学の学割制度そのものを失い、他の学生に迷惑をかけることにもなりかねませんので、十分に注意してください。</p>
<b>学部変更、 転科について</b>	<p>本学の学生が、現在の学部・学科から他学部・他学科へ移籍することです。</p> <p>学則第17条に基づき試験を行います。</p> <p>募集の詳細は、1月初旬に教務課で配布予定の「転科・学部変更試験要項」で確認してください。（検定料：15,000円）</p> <p>詳細については、教務課にお問い合わせください。</p> <p>本大学に在学中の者で、学部変更、転科（以下「転籍等」という。）を願った者については、その者が希望する学部または学部の学科に欠員があり、かつ、所定の試験に合格したときは、転籍等をさせることができる。</p> <p>2 転籍等については、第1年次に在学する者に限り、願い出ることができる。ただし、第2年次以上に在学する者であっても、あらためて第2年次への転籍等を願い出るときは、この限りでない。</p> <p style="text-align: right;">（大阪産業大学学則第17条）参照</p>

**学籍異動**

学籍異動と授業料納付期限は密接に関係しています。内容をよく確認してください。

**休 学**

病気その他の理由で休学しようとする者は、所定の手続きを経て、学長の許可を受けなければならない。

ただし、休学期間は通算して3年を超えることはできない。

(大阪産業大学学則第20条) 参照

授業料納入期限内に手続きを行った場合、休学期間中の授業料は徴収しない。

ただし、学期の途中から休学する者にたいしては、その学期の授業料は全額徴収する。

(大阪産業大学学則第20条) 参照

学部の一学科においては、休学期間を除き、修業年限の2倍を超えて在学することはできない。ただし経済学部においては、学科配属前の期間を含む。

(大阪産業大学学則第6条) 参照

	通年休学（1年間）	前期休学	後期休学
休学願提出期限※	4月20日	4月20日	10月15日
休学期間	4月1日～ 3月31日	4月1日～ 9月20日	9月21日～ 3月31日

※休学願の提出期限は、授業料等の納入期限と同日です。ただし、納入最終日が銀行の休業日にあたる場合は、その翌営業日を納入期限としますので、休学願の提出期限も同様となります。

なお、学科によっては半期の休学でも卒業は1年遅れる場合もあります。

詳しくは教務課にご相談ください。

提出する書類	休学願
--------	-----

書類記載の際、印鑑が必要です。

継続して休学する時・・・・・・・・休学願

※継続する場合は単年度ごとに手続きが必要です。

手続きがない場合は継続されません。

**復 学**

休学期間の途中で休学理由が消滅したときは、所定の手続きをとり、教授会の議を経て、学長の許可を受け、復学することができる。(大阪産業大学学則第21条) 参照

学期の途中で復学した者にたいしては、その学期の授業料は全額徴収する。

(大阪産業大学学則第21条) 参照

提出する書類	復学願
--------	-----

書類記載の際、印鑑が必要です。

## 退 学

病気その他のやむを得ない理由で退学しようとする者は、所定の手続きを経て、学長の許可を受けなければならない。  
(大阪産業大学学則第 19 条) 参照

	前 期	後 期
退学願 提出期限	4 月 20 日	10 月 15 日

※退学願の提出期限は、授業料等の納入期限と同日です。ただし、納入最終日が銀行の休業日にあたる場合は、その翌営業日を納入期限としますので、退学願の提出期限も同様となります。

提出期限を過ぎると除籍となります。詳しくは教務課にご相談ください。

提出する書類	退学願
--------	-----

書類記載の際、印鑑、学生証が必要です。

## 除 籍

学生が、次の各号のいずれかに該当するときは、除籍する。

- (1) 学費を納入期限を超えても納めないとき
- (2) 長期にわたって欠席し、または病気その他の理由で成業の見込みのないと認めるとき
- (3) 在学期間が、第 6 条第 2 項に定める期間を超えたとき
- (4) 死亡したとき  
(大阪産業大学学則第 23 条) 参照

学部内の同一学科においては、休学期間を除き、修学年限の 2 倍を超えて在学することはできない。ただし、経済学部においては、学科配属前の期間を含む。

(大阪産業大学学則第 6 条) 参照

## 再 入 学

本大学に再入学できる者は、次の各号のいずれかに該当し、所定の試験に合格した者でなければならない。

- (1) 自己都合により本大学を退学した者で、出願時に退学後 3 年を超えない者
- (2) 授業料未納のため除籍された者で、出願時に除籍取消期間満了後 3 年を超えない者  
(大阪産業大学学則第 14 条) 参照

※特別な理由がある者については、3 年を超えても再入学の願出を認めることがあります。また、再入学の試験その他に関しては、教務課にご相談ください。

授業料(等)の  
納付について

授業料、教育環境充実費(以下「授業料(等)」という。)は前期と後期に分け、それぞれ年額の 2 分の 1 を納入していただきます。

ただし、1 年分をその年の最初の納入期限までに一括して納入することができます。一旦納入された学費は、返還いたしません。

## 納入期限

	前 期	後 期
授業料(等)【納入期限】	4 月 20 日	10 月 15 日

(注) 納入最終日が銀行の休業日にあたる場合は、その翌営業日を納入期限とします。

※休学願・退学願の手続き期限も同様です。

## 振込依頼書

## ◎納入方法

本学所定の授業料等振込依頼書による銀行振込とします。

## ◎金額

納入方法・金額については、授業料等振込依頼書に記載しています。

※金額については、大阪産業大学学則、別表第3に記載  
(在学年数が4年を超える学生および2年を超える編入生についても記載)

大学ホームページ⇒在学生の皆様へ⇒関連リンク「教務課」⇒Web版冊子・配付物

## ◎送付時期

前期3月下旬・後期9月上旬に保護者宅へ送付します。

※送付されない場合、紛失した場合は1階経理課(本館)へお問い合わせください。

## 延納制度

## ◎「授業料(等)延納願」

やむを得ない理由により納入期限までに授業料、教育環境充実費が納入ができない場合は、延納(納入期限の2ヶ月延期)制度があります。

(大阪産業大学学費納入規定第6条)参照

## ◎「授業料(等)納入および除籍猶予願」

「授業料(等)延納」の適用を受けた後、特別な理由により期限日までに納入ができない場合は、「授業料(等)納入および除籍猶予願」(1ヶ月延期)制度があります。  
手数料 2,000円 を別途徴収します。(大阪産業大学学費納入規定第7条)参照

手続期間内に教務課に「授業料(等)延納願」と「授業料(等)納入および除籍猶予願」の2点を提出してください。

※詳しくは教務課にご相談ください。

提出書類記載の際、印鑑が必要です。

	前 期	後 期
「授業料(等)延納願」 「授業料(等)納入および除籍猶予願」【提出期限】	4月20日	10月15日
授業料(等)延納期限	6月20日	12月15日
授業料(等)納入および除籍猶予期限 ※除籍猶予手数料 <u>2,000円</u> が加算されます。	7月20日	1月15日

(注) 納入最終日が銀行の休業日にあたる場合は、その翌営業日を納入期限とします。

※1 本学では、各種奨学金制度についてご案内しております。詳しくは、学生生活課にご相談ください。

※2 また、教務課では本学と提携している教育ローンをご案内しておりますが、審査に時間がかかることがあるため、ご利用の際は納入期限の1ヵ月前までにお手続きを済ませますようお願いいたします。

除 籍 ・  
除籍取消

◎除籍

授業料（等）を納入期限内（前期4月20日、後期10月15日）に納めなければ、「除籍」となります。

除籍となった場合、保護者・学生に「除籍通知書」を郵送します。

授業料（等）を納入期限を超えても納めないとき。（大阪産業大学学則第23条（1））

◎除籍取り消し

除籍取消期間内（前期5月20日、後期11月15日）に教務課に「除籍取消願」を提出するとともに、授業料（等）を納入することにより除籍を取消することができます。

(注) 上記の期限等が休業の場合は、翌日とします。

授業料納付の際には、除籍取消料 5,000 円が加算されます。

除籍取り消し後、  
「授業料(等)」を  
納入できない場合

◎「授業料（等）納入猶予願」

「除籍取消願」提出時に、特別な事情により納入が困難な場合には、授業料（等）納入猶予願を提出することにより納入について1ヵ月の猶予期間を認めます。

◎授業料（等）納入および除籍猶予願

「授業料（等）納入猶予願」の適用を受けた後、特別な理由により期限日までに納入ができない場合は、「授業料（等）納入および除籍猶予願」を提出することによりさらに1ヵ月の猶予期間を認めます。授業料納付の際には、猶予手数料 2,000 円が加算されます。

「除籍取消願」提出時に授業料（等）の納入猶予を願い出る場合は、「授業料（等）納入猶予願」と「授業料（等）納入および除籍猶予願」も併せて提出してください。

	前 期	後 期
除籍取消願 授業料（等）納入猶予願 【提出期限】 授業料（等）納入および除籍猶予願	5月20日	11月15日
授業料（等）納入猶予期限 ※ <u>除籍取消料 5,000 円が加算されます</u>	6月20日	12月15日
授業料（等）納入および除籍猶予期限 ※ <u>除籍取消料 5,000 円と納入猶予手数料 2,000 円が加算されます</u>	7月20日	1月15日

提出書類記載の際、印鑑が必要です。

(注) 納入最終日が銀行の休業日にあたる場合は、その翌営業日を納入期限とします。

上記の期限等が休業の場合は、翌日とします。

一旦納入された学費は、返還いたしません。

<b>Portal-OSUとは</b>	<p>ポータルシステム「Portal-OSU」とは、修学に関する情報（時間割、休講、補講、講義連絡、教室変更、お知らせ、その他）を包括し、Web上で提供する総合案内システムです。お知らせや履修講義などについては、学生個人に応じた内容の情報を表示させることができます。また、メール配信設定をすることにより、それらの情報を大学からの個人連絡メールで受け取ることもできます。</p> <p>このPortal-OSUの一部の機能は、通常のパソコン、ブラウザだけでなく携帯電話などからでも利用可能です。</p> <p>また、学内各所に設置されているタッチパネル式情報端末からも情報を参照することができます。（教務課からのお知らせや講義連絡等は12号館にある掲示板も同時に確認してください。）</p> <p>※ポータルシステム利用方法の詳細は、別冊子「Web履修申請ガイドブック」をご参照ください。</p> <p>※利用者個人の履修に応じた情報（時間割、休講、補講情報等）は履修確定後からサービスが開始されます。</p> <p>※携帯電話で参照可能な項目は、お知らせ、休講、補講、教室変更、講義連絡、メール通知設定等です。</p>
<b>ポータルシステムの利用環境について</b>	<p>= 注意 =</p> <p>次の環境であれば、Webシステムを利用することができます。（インターネット提供者や回線の種類は問いません。）</p> <p>推奨 OS : Windows Vista、Windows 7 推奨 ブラウザ : Internet Explorer 6 から Internet Explorer 8 まで</p> <p>これ以外のご利用については動作の保証はできません。</p> <p>※詳細は Web 履修申請ガイドブックをご参照ください。</p> <p>※スマートフォン、タブレット端末はサポートしていません。一部表示されない部分（時間割等）がある場合があるので、ご注意ください。また Web 履修申請は行えません。</p>
<b>主な機能</b>	
<b>① お知らせ</b>	<p>教員および教務課、学生生活課などの本学の各部署からの各種お知らせを確認できます。</p>
<b>② 時間割</b>	<p>休講、補講、教室・教員変更など講義に関する連絡を確認できます。</p>
<b>③ 教務システム</b>	<p>Web履修申請、シラバスへの入口です。</p> <p>履修登録、履修登録確認表、成績表ダウンロード等はこちらからアクセスが可能です。</p> <p>※履修登録確認表、成績表はパピルスメイトからも入手することができます。（P14 参照）</p>
<b>④ 定期試験時間割</b>	<p>定期試験の時間割は右図④から確認することができます。試験時間割の発表は、試験実施日の1週間前からはなります。</p>
<b>⑤ メール通知設定</b>	<p>設定をすることで、休講、補講、教室変更、講義連絡等大事なお知らせをメールで受信することができます。</p> <p>メール通知設定の登録を必ず行いましょう。</p> <p>メールは、PC メールアドレスと携帯メールアドレスを登録することができます。（注意：携帯電話などのメール設定に受信制限をかけている場合は、「osaka-sandai.ac.jp」に対して受信制限を解除してください。）</p>

Portal—OSUへのアクセス(ログイン)方法

ポータルシステムにログインする際は、IDとパスワードが必要です。

**パソコンからのログイン方法**

大学TOP (<http://www.osaka-sandai.ac.jp/>)


在学生の皆様へ

大産大産大/ポータルシステム

**Portal-OSU**

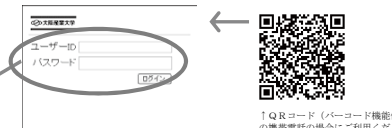
→ログイン画面へ

Portal-OSUログイン画面



**携帯からのログイン方法** ※一部ご利用できない機種があります。

[https://f24-plw.osaka-sandai.ac.jp/uniprove\\_pt-mobile/](https://f24-plw.osaka-sandai.ac.jp/uniprove_pt-mobile/)



QRコード (バーコード機能付の携帯電話の場合にご利用ください)

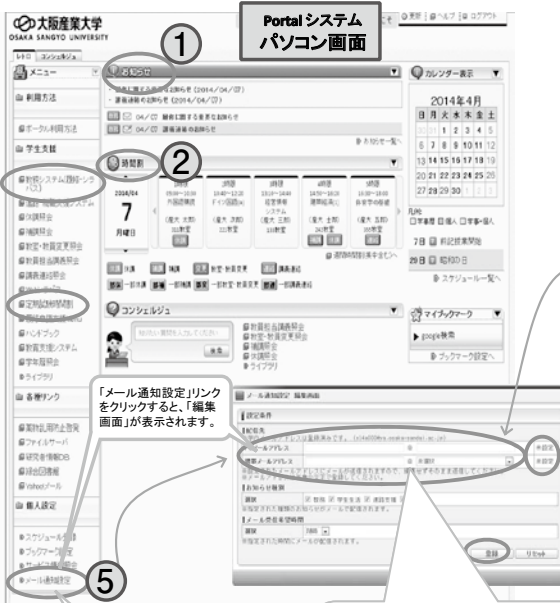
ユーザID : s + 学籍番号(英数字はすべて半角小文字)

パスワード : パスワード通知書は入学式で配布します。コンピュータ演習室利用時のものと同じ

※パスワードを忘れた方は、証明書発行機で初期パスワード通知書を手入れしてください。(有料 : 200円)なお、初期パスワード(入学時に交付)を変更した方は、パスワードを初期値に戻す手続きが必要です。初期パスワード通知書に併載されている、パスワード初期化願により、情報科学センター(本館5F)で手続きを行ってください。

ポータルシステム 画面紹介

**Portalシステム パソコン画面**



① お知らせ (件数 0件)

② 休講 (件数 0件)

③ 補講 (件数 1件)

④ 教室変更 (件数 2件)

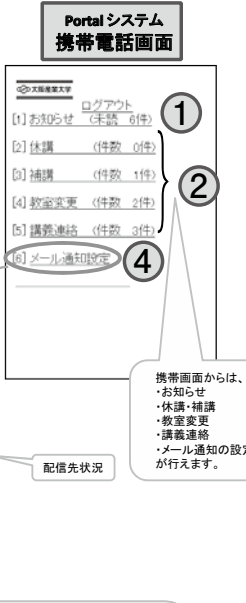
⑤ 講義連絡 (件数 3件)

⑥ メール通知設定

「メール通知設定」リンクをクリックすると、「編集画面」が表示されます。

ここをクリックして必ずメール通知設定を行いましょ！

**Portalシステム 携帯電話画面**



① お知らせ (件数 0件)

② 休講 (件数 0件)

③ 補講 (件数 1件)

④ 教室変更 (件数 2件)

⑤ 講義連絡 (件数 3件)

⑥ メール通知設定

携帯画面からは、お知らせ・休講・補講・教室変更・講義連絡・メール通知の設定が行えます。

**【メール通知設定方法】**

①お知らせを受け取りたいPC・携帯メールアドレスを入力します。  
 【重要】メール送信時に使用するメールアドレスを登録してください。

②登録をクリックします。配信先状況が「未設定」⇒「仮登録」へ変わります。

③本登録を行うため、届いた仮登録メールの件名、本文の変更は行わず、「返信」をします。

④6分程度で、設定完了メールが届き、配信先状況が「仮登録」⇒「本登録」へ変わります。

※配信先状況が「本登録」にならないと、お知らせメールが受信できません。

<b>学期と 授業時間 試験時間</b>	試験時間は授業時間と異なるので注意して下さい。 (授業時間中に行われる試験は除く)																		
<b>学 期</b>	前期と後期の2期に分かれています。  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">前 期</td> <td style="text-align: center;">後 期</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4月1日～9月20日</td> <td style="text-align: center;">9月21日～3月31日</td> </tr> </table> これに応じて前期開講科目、前期試験、後期開講科目、通年科目、後期試験などがあります。	前 期	後 期	4月1日～9月20日	9月21日～3月31日														
前 期	後 期																		
4月1日～9月20日	9月21日～3月31日																		
<b>授業時間</b>	[ 授業時間 ]  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">時限</th> <th style="text-align: center;">時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1 限</td> <td style="text-align: center;">9 : 00 ~ 10 : 30</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2 限</td> <td style="text-align: center;">10 : 40 ~ 12 : 10</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3 限</td> <td style="text-align: center;">12 : 50 ~ 14 : 20</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4 限</td> <td style="text-align: center;">14 : 30 ~ 16 : 00</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5 限</td> <td style="text-align: center;">16 : 10 ~ 17 : 40</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6 限</td> <td style="text-align: center;">17 : 50 ~ 19 : 20</td> </tr> </tbody> </table> ※ 1 限は 90 分授業 (= 1 コマ)	時限	時間	1 限	9 : 00 ~ 10 : 30	2 限	10 : 40 ~ 12 : 10	3 限	12 : 50 ~ 14 : 20	4 限	14 : 30 ~ 16 : 00	5 限	16 : 10 ~ 17 : 40	6 限	17 : 50 ~ 19 : 20				
時限	時間																		
1 限	9 : 00 ~ 10 : 30																		
2 限	10 : 40 ~ 12 : 10																		
3 限	12 : 50 ~ 14 : 20																		
4 限	14 : 30 ~ 16 : 00																		
5 限	16 : 10 ~ 17 : 40																		
6 限	17 : 50 ~ 19 : 20																		
<b>試験時間</b>	[ 試験期間 ]  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <tr> <td style="text-align: center;">                     前期試験                      (7月下旬～8月上旬)                 </td> <td style="text-align: center;">                     前期終了科目・通年科目 (中間試験)                 </td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">                     後期試験・学年末試験                      (1月下旬～2月上旬)                 </td> <td style="text-align: center;">                     後期終了科目・通年科目                 </td> </tr> </table> ※通年科目の前期試験は中間試験として行います。  [ 試験時間 ]  <table border="1" style="margin-left: auto; margin-right: auto;"> <thead> <tr> <th style="text-align: center;">時限</th> <th style="text-align: center;">時間</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td style="text-align: center;">1 限</td> <td style="text-align: center;">9 : 20 ~ 10 : 40</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">2 限</td> <td style="text-align: center;">11 : 00 ~ 12 : 20</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">3 限</td> <td style="text-align: center;">13 : 00 ~ 14 : 20</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">4 限</td> <td style="text-align: center;">14 : 40 ~ 16 : 00</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">5 限</td> <td style="text-align: center;">16 : 20 ~ 17 : 40</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">6 限</td> <td style="text-align: center;">18 : 00 ~ 19 : 20</td> </tr> </tbody> </table> ※通常試験時間は 80 分ですが、科目によっては 60 分の場合もあります。	前期試験 (7月下旬～8月上旬)	前期終了科目・通年科目 (中間試験)	後期試験・学年末試験 (1月下旬～2月上旬)	後期終了科目・通年科目	時限	時間	1 限	9 : 20 ~ 10 : 40	2 限	11 : 00 ~ 12 : 20	3 限	13 : 00 ~ 14 : 20	4 限	14 : 40 ~ 16 : 00	5 限	16 : 20 ~ 17 : 40	6 限	18 : 00 ~ 19 : 20
前期試験 (7月下旬～8月上旬)	前期終了科目・通年科目 (中間試験)																		
後期試験・学年末試験 (1月下旬～2月上旬)	後期終了科目・通年科目																		
時限	時間																		
1 限	9 : 20 ~ 10 : 40																		
2 限	11 : 00 ~ 12 : 20																		
3 限	13 : 00 ~ 14 : 20																		
4 限	14 : 40 ~ 16 : 00																		
5 限	16 : 20 ~ 17 : 40																		
6 限	18 : 00 ~ 19 : 20																		



履修申請

当該年度に単位を修得しようとする授業科目を申し込むことです。  
履修登録は Web 履修申請システムにて 4 月（在學生は 3 月）、9 月（登録および修正を含む）の年 2 回です。  
4 月（在學生は 3 月）の履修登録では原則、各自の学修計画に基づき、当該年度に必要なとなる科目を全て登録します。

所定の期間内に履修申請を行わなかったり、間違った履修申請を行うと、授業に出て試験を受けても、単位は修得できません。

履修申請は、コンピュータを利用して行います。操作（申請）方法はコンピュータの基本操作を会得している方なら、画面の指示に従えば簡単にできるようになっています。

なお、操作（申請）方法の概略は『Web 履修申請ガイドブック』に掲載されています。申請システムを利用するためには ID とパスワードが必要です。コンピュータ関係の授業で使用する ID とパスワードと同じです。また、コンピュータを所有していない方のために申請期間中は、学内のコンピュータ演習室を開放します。

※詳細は『Web 履修申請ガイドブック』をご覧ください。

※履修と修得について

「履修」とは、単位を修得するために、教育課程に定められた授業科目を登録し学ぶことです。

「修得」とは、授業科目を学んだ結果、合格の評価を受け単位認定されることです。

履修申請手順

①必要な情報(モノ)をそろえる

履修申請をする前に、下の 1) ~ 5) の資料をそろえてください。  
新入生は 4 月、在學生は 3 月です。

1) カリキュラム表      ハンドブック（この冊子に掲載されています）

2) 講義時間割      （毎年配布）

3) Web シラバス

シラバスとは、講義（授業）の計画や、講義内容（概要）を記したものです。どんな講義が開講されているか、講義（授業）の内容や成績評価基準等も掲載されているので次の検索方法で確認しましょう。

【Web シラバス（授業計画書）検索方法】



4) 成績表

修得した科目や単位、卒業に必要な科目や単位を確認するために必要です。

5) 『Web 履修申請ガイドブック』

Web 履修申請の申請スケジュール、操作マニュアル等が掲載されている冊子（毎年配布）



②履修計画  
を立てる



③履修申請の  
手続きを行う

P14に記載の必要な情報を基に、『Web 履修申請ガイドブック』巻末の「クラス登録応募下書き用紙」も確認し、履修計画を実際に、「履修申請下書き用紙」に記入していきます。

**履修計画における注意点**

- ①履修する科目を選ぶために、事前に「Webシラバス（授業計画）」を読んでください。
- ②各時間帯に開講されている授業科目の中から、自分が受りたい科目を選び、選んだ科目を各自で履修申請してください。学生一人一人の時間割の内容は、同じ学部学科であっても違ったものになります。
- ③卒業要件単位数を充足することに重点をおいて時間割を組んでください。
- ④学籍番号や学年により履修が制限されているもの、履修する講義が予め指定されているもの（既決履修講義）、抽選により履修者を決定するもの、プレイスメントテストの結果により履修指示がされているものなど、さまざまなタイプがあります。講義時間割の備考欄などに記載されている履修の条件をよく確認してください。
- ⑤既に単位認定を受けた科目を再度履修することはできません。
- ⑥各ガイダンスには必ず参加してください。

**1) クラス登録科目応募**

抽選により履修者を決定するタイプの科目は、履修申請に先立ち応募受付を行い、抽選処理を行います。抽選の結果当選した場合に限り履修できます。なお、当選した講義（クラス）は履修を取り消すことができません。詳細は『Web履修申請ガイドブック』巻末の「クラス登録応募下書き用紙」をご覧ください。

**重要！クラス登録応募について**

履修人数を制限している科目（講義時間割の科目名左側に「●」「○」「◎」印のある科目）を受講する方は、本申請の前にクラス登録応募してください。

クラス登録応募は、Webで「受付→抽選、履修クラスの決定→結果発表」という手順で行います。ただし、科目によっては、応募者多数の場合、受講できない（抽選にはずれる）ことがあります。

詳細は『Web 履修申請ガイドブック』の「クラス登録」を参照してください。

**【クラス登録タイプについて】**

<p>I . 登録保障型 (講義時間割●印科目)</p>	<p>この科目は、同一曜日時に複数クラスが設定されています。科目と曜日時限を指定して応募します。クラス(教員)は指定できません。応募すれば必ず当選します。</p>
<p>II . 曜日時限指定抽選型 (講義時間割○印科目)</p>	<p>この科目は、複数の曜日時に複数クラスが設定されています。科目と曜日時限を指定して応募します。クラス(教員)は指定できません。希望の曜日時限すべてが定員を超えた場合ははずれることがあります。(曜日時限に希望順位をつけられます。)</p>
<p>III . クラス指定抽選型 (講義時間割◎印科目)</p>	<p>この科目は、複数の曜日時限または同一の曜日時に複数クラス設定されています。科目と曜日時限、クラス(教員名)を指定して応募します。希望のクラスすべてが定員を超えた場合ははずれることがあります。(クラスに希望順位をつけられます。)</p>

抽選結果、当選クラス(教員名)につきましては、本申請までにWeb上で発表します。クラス登録講義につきましては、抽選・登録の結果、決定したクラスは原則取消すことはできません。

## 2) 本申請

履修計画（下書きした時間割）に基づいて、コンピュータを操作し講義を申請してください。申請画面を開くと履修可能な講義が表示されています。（内容は学生ごとに異なります。）。同時に抽選により受講を許可された講義と既決履修講義が表示されています。これらの講義は、取り消すことができません。なお、期間内ならば何度でも申請内容を変更することができます。申請が完了したら、申請内容を印刷して保管しておいてください。

## 3) 修正

申請した講義を修正（追加、削除）することができます。ただし、抽選により履修が決定した講義、既決履修講義は取消できません。修正が完了したら、必ず申請内容を印刷して保管しておいてください。

履修登録  
確認表

Web履修申請期間終了後に、履修確定内容を確認するためのものです。  
(5月上旬、10月上旬発行)

履修登録確認表にて、必ず申請した科目と相違がないか確認してください。  
記載のない科目を受講し試験を受けても単位は認定されません。

≪「履修登録確認表」はポータルシステム [Portal-OSU](#) の教務システム（履修・シラバス）にアクセスし、入手・印刷してください。  
またはパピルスメイトでも年2回無料で発行することができます。≫

授 業

各学年は前期と後期の2期に分かれています。

前 期	後 期
4月1日～9月20日	9月21日～3月31日

休 講

◎担当教員の都合による休講

担当教員の都合により授業ができない場合は、ポータルシステム [Portal-OSU](#) で案内します。

◎気象警報および交通機関途絶による休講

次の1)～3)のいずれかに当てはまる場合は休講となり、授業や試験は行われません。警報が解除、あるいは交通機関が平常に回復した場合は、下記のとおり授業あるいは試験が実施されます。

- 1) 大阪府下のいずれかの地域に「暴風警報」、「特別警報（大雨、暴風、高潮、波浪、暴風雪、大雪）」が発令されたとき。
- 2) JR西日本「学研都市線（片町線）」の京橋～四条駅間が途絶しているとき。
- 3) 大阪市営地下鉄「中央線」・近畿日本鉄道「けいはんな線」（本町～生駒間）及び近畿日本鉄道「奈良線」の2交通機関が同時に途絶しているとき。

※事故等による一時的な交通機関運休の場合は、原則通常通り実施します。

解 除 時 間	授 業 の 取 扱
午前 7時までに解除された場合	通常通り
午前 10時までに解除された場合	3限目から通常授業
午前 10時を過ぎても解除されない場合	3限目から5限目まで休講
午後 3時までに解除された場合	6限目から通常授業
午後 3時を過ぎても解除されない場合	全授業休講

◎自然休講

授業開始後 30分経過して担当教員が来室しない時は「自然休講」になります。自然休講も補講対象となります。

補 講

休講した授業については、別途補講授業を行います。

補講日については、ポータルシステム [Portal-OSU](#)にてお知らせします。（一部掲示しています。）

## レポート

授業担当教員から、レポートを提出するよう指示があった場合は、次の点に注意してください。

- ・ 学科、科目名、教員名、学籍番号、氏名を明記した表紙をつけてください。
- ・ 2枚以上の場合は、ホッチキス等で綴じてください。
- ・ 教員から指示があった場合はそれに従ってください。
- ・ 授業担当教員から「レポートBOXに投入」する旨の指示があった場合は、指定されたレポートBOXに入れてください。(BOXは9号館1階および各学部・学科事務室にあります。)
- ・ 提出後の訂正や追加は認められません。
- ・ 提出締切日を過ぎると一切受け付けることができません。
- ・ 定期試験の替りにレポートを課す授業もあります。常に授業に出て情報を得るようにしてください。

## (表紙記入例)

学科名	○○○○
科目名	○○○○
担当教員	○○○○先生
レポート課題	○○○○
学籍番号	○○○○○○
氏名	○○○○

## 集中講義

各授業科目の講義は通常、前期・後期・通年の授業形態で行われます。しかし、授業科目担当者を学外から招く等の理由で、長期休暇期間等を利用して行う集中講義があります。日程についてはポータルシステムでお知らせします。(一部掲示しています。)

## 海外研修

言語文化科目分野の単位が修得できる海外研修科目があります。参加希望者は3月下旬に実施される語学研修ガイダンスに参加してください。なお、海外研修に参加する場合は、履修申請期間に必ず登録してください。詳しくは国際交流課にご相談ください。

## 既修得単位の認定

入学前の既修得単位の認定とは、本学に入学する前に他の大学・短期大学において修得した単位、あるいは高等専門学校・その他文部科学大臣が別に定める教育機関(専修学校等)での学修について、最大60単位まで本学で修得した単位として認める制度です。認定を希望する場合は、下記の内容で取り扱います。受付期間を過ぎてからの申請は認められませんので注意してください。  
専門学校の場合は、修了時に「専門士」の資格を修得していることが条件です。

- ①受付期間……平成27年4月2日(木)～平成27年4月10日(金)
- ②受付場所……教務課窓口
- ③必要書類……1) 当該学校が発行する成績証明書または単位修得証明書  
(各科目の単位数および配当時間数が記載されていること)  
2) 当該学校の学生便覧、シラバス等(カリキュラムがわかるもの)

<p><b>授業の欠席</b></p>	<p>大学学則第 22 条に規程する欠席届の取扱いは、次のとおりとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 届には、欠席を証明する公的な書類を必要とする。※ 1</li> <li>2. 欠席届は、欠席したことが止むを得ない事情であった事を証明するもので、出席を免除するものではない。</li> <li>3. 欠席届は、本人が教務課に届け出た後に、直接担当教員に持ち回り承認を得、教務課に提出しなければならない。</li> </ol> <p>※ 1 印鑑、公的な証明書（疾病に関する場合は診断書、冠婚葬祭の場合は参列した証となるもの、葬儀の場合は会葬礼状など）P21 追試験受験該当者を参照してください。</p> <p>原則的に授業欠席の電話連絡は受け付けていません。 そのため、教務課から担当教員への欠席連絡の取り次ぎは行いません。 後日、教務課にお越しください。ただし、感染症のおそれ、事件・事故等があったときは、教務課または学生生活課まで電話連絡してください。</p> <p>&lt;「欠席届」の手続きの流れ&gt;</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①印鑑、公的な証明書（疾病に関する場合は診断書、親族の冠婚葬祭の場合は参列した証となるもの（葬儀の場合は会葬礼状など）を持って教務課にお越しください。</li> <li>②「欠席届」を記入してください。</li> <li>③欠席した科目の担当教員に、「欠席届」を提示してください。</li> <li>④提示終了後に「欠席届」を教務課に返却してください。</li> </ol>
<p><b>定期試験</b></p>	<p>授業科目の履修状況を評価し、単位を認定するために試験が行われます。 授業（科目）によっては定期試験期間以外に試験を実施する場合があります。授業期間内に試験が行なわれたり、レポートを提出しなければならない授業もありますから、常に掲示等も確認してください。 また、授業中に課題を与えられる場合などは掲示をしない場合もありますから、気をつけてください。日頃の出席状況、受講態度なども評価の基準になります。さらに、単位認定にあたり、出席を前提としている科目もありますので注意してください。 詳細は、Web シラバスにて確認してください。</p>
<p><b>定期試験を受けるためには</b></p>	<p>履修申請が必要です。「履修登録確認表」（P16 参照）で登録が確認された授業科目以外の試験を受けることはできません。 また、授業料等を納入していなければなりません。</p>

## 定期試験に関する注意事項

- 授業時間割と異なる曜日・時限で試験を実施する場合があります。
- 他曜日・他時限のクラスと合同で試験を実施する場合があります。
- 受験者数の関係で、教室を分けて試験を実施する場合があります。
- 試験時間割発表後にも実施日・教室等が変更される可能性があります。
- 旧カリキュラム適用の学生で科目の読み替えのある学生は、Webシラバス（授業計画書）参照の上、試験科目・試験日時を確認してください。
- 自由科目や乗り入れ等で他学部他学科の科目を履修している学生は、その科目が本来開講されている学部・学科の試験時間割を確認の上、受験してください。
- 受験の際には以下の事項を遵守してください。
  - ① 試験場においては、監督者の指示に従ってください。
  - ② 試験場では、隣席との間隔をあけて着席してください。特に縦の列をそろえて前から順につめて着席してください。
  - ③ 試験場では、学生証を通路側の机の上に置いてください（学生証のない者は受験できません）。
  - ④ 学生証を忘れた時は、本館1階教務課で「試験用臨時学生証」の発行を受けた後に試験会場に入室してください。  
「試験用臨時学生証」は当日のみ有効とし、当日の試験終了後直ちに教務課に返却してください。  
「試験用臨時学生証」の発行手数料は500円です。
    - ⑤ 学生証・筆記用具・参照許可物・時計以外のものは、かばん等の中に入れ、監督者が指示する場所へ置いてください。
    - ⑥ 答案用紙には、学籍番号・氏名をペンまたはボールペンで記入し、監督者に学生証との照合を受けてください。
    - ⑦ 携帯電話・PHS等は電源を切り、時計代りに机の上に置いて使用しないでください。また、時計のアラームは使用しないでください。
  - ⑧ 試験開始後30分以上遅刻した者は受験できません。また、40分以上経過しなければ退場することができません。
  - ⑨ 配付された答案用紙・その他の用紙類はすべて提出し、試験会場外に持ち出すことを禁止します。
  - ⑩ 受験したことを証明する「受験者票」には、ペンまたはボールペンで学籍番号・氏名を必ず記入してください。  
 ※ 試験当日は、必ずペンまたはボールペンを持参ください。
  - ⑪ 試験中に不正行為を行った者には退場を命じ、以下の通り処分します。
    - 注意義務違反を怠った者・・・当該科目の試験を無効とします。（監督者の指示に従わない者、受験態度が悪い者など。）
    - 不正行為を行った者・・・当該試験期間中の試験をすべて無効とします。

### 修学規程

単位認定に係わる試験(以下「試験」という。)を受験しようとする者は、試験場において、次の各号に定める事項(以下「注意義務」という。)を守らなければならない。

- (1) 試験場においては、監督者の指示に従わなければならない。
- (2) 試験開始後30分以上遅刻した者は試験場に入ることができない。
- (3) 受験のさいは、学生証を机の上に置かなければならない。学生証を所持しない者は受験することができない。
- (4) 答案用紙には、学籍番号および氏名をペンまたはボールペンで明記し、監督者に学生証との照合を受けなければならない。
- (5) 特に許可されたものを除き、すべて携帯品は、監督者が指定する場所に置かなければならない。
- (6) 配布を受けた答案用紙およびその他の用紙類はすべて、監督者が指定する場所に提出し、試験場外に持ち出してはならない。

### 修学規程

試験にさいして、次の各号の何れかの行為を行った者は、不正行為者とみなし、学生証および答案を取り上げて退場を命じる。

- (1) 前条の注意義務に抵触する行為
  - (2) 許可されたもの以外を見ること
  - (3) 他人の不正行為を助けること
  - (4) 不正行為を目的とするものを保持すること
  - (5) 不正行為に係わる物的証拠を故意に隠蔽すること
  - (6) その他不正行為とみなされること
- 2 不正行為を行った者にたいしては、次の各号に従って処分を行う。
- (1) 前項1号の不正行為を行った者は、当該科目の試験を無効とする。
  - (2) 前項2号から6号の不正行為を行った者は、当該試験期間中の試験を無効とする。
  - (3) 不正行為を繰り返すなど特に悪質な者にたいしては、学則第48条に基づいて懲戒処分とする。

<p><b>追試験</b></p>	<p>追試験は、病気等で定期試験を受けることができなかった者が、以下のイ)～二)に該当する場合に申し込むことができます。通年科目の中間試験に追試験はありません。試験時間、試験場での注意、不正行為者の処分等については、定期試験と同様に扱われます。</p>
<p><b>受験該当者</b></p>	<p>イ) 病気による公的診断書※ 1 がある者、および就職活動に関する証明※ 2 がある者。          ※ 1 受診日以外に欠席を要する場合は、その欠席期間も安静を要することが判らなければ、原則として追試験の受験は認められません。          ※ 2 「就職活動証明書」を事前にキャリアセンターで受け取り、必要事項を記入の上、訪問企業で押印したものを教務課に提出してください。</p> <p>ロ) 試験期間および期間外に次の事項で特別に休んだ場合、保護者および他の証明書がある者。          ・父母、配偶者(それに準ずる者を含む)または子が死亡した時(7日+往復日数)          ・祖父母または兄弟姉妹が死亡した時(2日+往復日数)          ・1周忌までの法要を行う時、または上記以外の親族が死亡した時(1日+往復日数)          ・交通事故で被害者の場合は、事故が発生したその日から追試験を受験できる日まで。</p> <p>ハ) クラブ活動における関西大会以上の公式試合、並びに大会に参加するため予め許可を得た者。(大会期間+往復日数)</p> <p>二) 各時限において、交通機関の延着により受験できなかった者で、30分以上の延着証明(公の証明書に発生年月日、時間帯が明記され、代表者の印のあるものに限る。)を添えて発生した当日に教務課窓口に出して、交通機関に問い合わせた結果、申請事項と相違ないと認められた者。</p> <p>※その他特別な理由のある者は、別に審議します。</p>
<p><b>申し込み方法</b></p>	<p>追試験を受験するためには、「追試験受験願」に必要事項を記入し、決められた申し込み期間内(別途ポータルシステムに記載します。)に、受験料(1,000円/1科目)を添えて申し込んでください。追試験受験可否については、教授会において審議し決定します。その結果は、ポータルシステムからお知らせ配信で発表します。メール通知設定の登録をしておいてください。</p> <p>ただし、就職試験、交通機関の延着および裁判員としての職務従事のために定期試験を受験できない場合は、受験料は必要ありません。</p> <p>公的理由により通年科目の中間試験を欠席した場合、理由を証明する書類を持って教務課に相談に来てください。中間試験欠席証明を発行します。</p>



## 成績

「履修登録確認表」で登録が確認された科目以外は、単位を修得することができません。

ポータルシステムのお知らせに「成績発表についてのお知らせ」が配信されますので確認してください。(P 11 参照)

証明書自動発行機パピルスメイトで年間 2 通まで成績表を発行することができます。

◀ポータルシステム [Portal-OSU](#) P12 ③教務システム（履修・シラバス）にアクセスし、成績表で確認してください。▶

通年科目の中間試験・前期集中講義については、前期成績発表はありません。  
成績発表（交付）日程は当該年度の学年暦を参照してください。

## 成績発表

## 成績評価

正しく履修登録された科目について、所定の試験を受けた結果、成績が「S」「A」「B」「C」に評価された場合に単位が認定されます。

評価	S(秀)	A(優)	B(良)	C(可)	D(不可)	*	T(認定)	@
適用(点)	100～ 90	89～ 80	79～ 70	69～ 60	59～0	注1)参照	注2)参照	履修中
単位	合格				不合格	不合格	認定	

注 1) \* (アスタリスク) について

成績評価 (S、A、B、C、D) が受けられずに、未受験または未受験相当は \* (アスタリスク) となります。

- 1) 定期試験を受けなかったとき。
- 2) 定期試験は受けたが、授業欠席が多かった。
- 3) 授業欠席が多かった。
- 4) レポート、課題を提出しなかった。
- 5) レポート、課題を提出したが、授業欠席が多かった。
- 6) その他、Webシラバスに明示されている場合。

\* (アスタリスク) の基準がWebシラバスに明示されている場合は、その基準を優先します。

◀「Webシラバス」を参照するには、ポータルシステム ③教務システム（履修・シラバス）にアクセスしてください。▶

注 2) T (認定) について

教授会で認められた場合は、60 単位を超えない範囲で本学での単位として認定します。(P18 参照)

- 1) 入学前および入学後における他の大学、短期大学で修得した単位。
- 2) 短期大学・高等専門学校における学修や、その他文部科学大臣が別に定める学修。

# 成績表の見方

(ASD010R01)

PAGE: 1 / 1

## 成 績 表

○学部  
○学科 ○コース

学籍番号 99X999

氏名 産大 太郎  
19XX年 10月 10日生

表 (A)

20XX年 4月 1日 入学

科 目 名	単 位	評 価	科 目 名	単 位	評 価	区 分	卒業 要件 単位数	修得 単位数	修得 割合
【総合教育科目】 (教養教育科目) 表現力基礎演習 (人文科学)	選択2	B				教養教育	—	—	18
論理学	選択2	*				言語文化 (内 英語)	8以上 (4以上)	8 —	8 (4)
心理学	選択2	B				身体科学	—	—	2
社会思想史 (社会科学)	選択2	C				総合教育(小計)	24以上	24	28
日本国憲法	選択2	B				必修	78	71	71
経済学の基礎	選択2	B				選択	14以上	14	20
近代史	選択2	C				(内 自由科目)	(0~4)	—	(0)
地理学 (学際領域)	選択2	A				専門教育(小計)	92以上	85	91
外国の社会と文化 倫理学(工業倫理を含む。) (言語文化科目)	選択2	C				合計	124	117	119
(英語)									
英語(Listening & Speaking) 1	選択1	S							
英語(Listening & Speaking) 2	選択1	C							
英語(Reading & Writing) 1	選択1	A							
英語(Reading & Writing) 2	選択1	B							
(初修外国語)									
ドイツ語入門1	選択1	C							
ドイツ語入門2	選択1	C							
フランス語入門1	選択1	C							
中国語入門 (身体科学科目)	選択1	C							
スポーツ科学	選択2	B							
【専門教育科目】 (専門基礎科目) 基礎数学および演習	選択2	A							
基礎物理学	選択2	C							
解析学1	必修2	B							
解析学2	必修2	C							
代数学1	必修2	S							
代数学2	必修2	A							
工業数学	必修2	C							
工業数学演習	必修1	B							
物理学2	必修2	B							
化学	必修2	B							
工業力学1	必修2	C							
材料力学1	必修2	B							
材料力学演習	必修1	B							
材料力学2	選択2	C							
機械動力学	必修2	B							
機械製作法	選択2	B							
図形科学	必修2	C							
機械製図	必修2	C							
機械設計学1	必修2	B							
CAD演習	選択1	D							
材料工学1	必修2	C							
流体工学1	必修2	B							
流体工学演習	必修1	B							
熱工学1	必修2	C							
熱工学演習	必修1	C							
電気工学1	必修2	B							
電気工学2	選択2	C							
情報基礎演習	必修1	B							
外国語講読	必修2	A							
交通機械基礎実習	必修2	B							
(専門応用科目) 自動車構造論1	必修2	B							
自動車構造論2	必修2	C							
自動車性能論	必修2	B							
自動車強度論	必修2	B							
自動車技術論	必修2	A							
自動車整備工学	必修2	C							
交通原動機学1	必修2	B							
自動車工学 ドライブロジー	選択2	C							
福祉機械	選択2	C							
交通機械デザイン論	選択2	B							
自動車工学実習1	必修4	C							
自動車工学実習2	必修4	C							
自動車工学実習3	必修2	B							
交通機械実験・実習2	必修2	B							
(セミナー・卒業研究) セミナー	必修2	A							
— 以下余白 —	必修2	A							

区 分	卒業 要件 単位数	修得 単位数	修得 割合
教養教育	—	—	18
言語文化 (内 英語)	8以上 (4以上)	8 —	8 (4)
身体科学	—	—	2
総合教育(小計)	24以上	24	28
必修	78	71	71
選択	14以上	14	20
(内 自由科目)	(0~4)	—	(0)
専門教育(小計)	92以上	85	91
合計	124	117	119

卒業要件外教職科目	修得総単位数
教科に関する科目/教科又は教職に関する科目	0
教職に関する科目	0

**評価欄：**  
左寄り：前年度までに単位修得済の科目の評価  
右寄り：今年度に履修した科目の評価

卒業要件の算入対象  
ではない科目  
(教職免許用科目)の  
集計欄

**単位欄：**  
科目の属性と単位数

【科目の属性】  
必修 … 必修科目  
選必 … 選択必修科目  
選択 … 選択科目  
コ必 … コース指定必修科目  
指必 … 指定選択必修科目

**科目名欄：**  
前年度までに単位修得済の科目  
および  
今年度履修した科目

<成績評価>  
S(秀)：100～90点 T(認定)：59点以下  
A(優)：89～80点 D(不合格)：59点以下  
B(良)：79～70点 \* (未受検科目)  
C(可)：69～60点

表 (B)

発表時	次年度
履修年次   卒業資格	履修年次   卒業
4年次   有	4年次   有
履修制限(指定先行科目)	発表時   次年度
申請制限単位数   50	

20XX年 9月 19日  
大阪産業大学 教務課

成績表の見方

表(A)について

科目区分	①	②	③
	卒業要件単位数	修得卒業要件単位数	修得単位数
教養教育	—	—	18
言語文化	8以上	8	8
(内 英語)	(4以上)	—	(4)
身体科学	—	—	2
総合教育(小計)	24以上	24	28
④			
必修	78	71	71
選択	14以上	14	20
(内 自由科目)	(0~4)	—	(0)
専門教育(小計)	92以上	85	91
合計	124	117	119

①卒業要件単位数

卒業に必要な単位数

②修得卒業要件単位数

修得している全ての単位のうち卒業要件としてカウントされた単位数

修得卒業要件単位数の要件を充足しているかを判断します。科目区分毎の要件を超えて表示されることはありません。

③修得総単位数

修得している全ての単位数 (卒業要件としてカウントされていない単位数を含む)

④科目区分、卒業要件単位数欄

学部学科が定めた要件区分名を示します。

表(B)について

⑤	⑥	⑦	⑤	次年度
履修年次	卒見証発行	卒研資格	履修年次	
4年次	有	有	卒業	
⑧	履修制限(指定先行科目)		発表時	次年度
申請制限単位数	50			

⑤履修年次/セメ

2年次 / 3セメ	3年次 / 5セメ	4年次 / 7セメ	卒業	卒1	4留 / 8セメ	9月卒
2年次に進級	3年次に進級	4年次に進級	卒業見込	卒業確定	卒業証明	9月卒業確定

⑥卒見証発行(3年次/6セメ以上)

有	無	卒業見込証明とは、当該年度に卒業が可能であることを証明するもので、就職活動等に必要です。 【発行条件】 ①既に卒業要件単位数を充足していること。 ②卒業要件単位を充足できる履修申請が完了していること。 ③3年(編入生は1年)以上在学していること。
卒業見込証明書発行可	卒業見込証明書発行不可	

⑦卒研資格(3年次/6セメ以上)

有	無	既有	済	※各学科により資格が異なりますので、チャプター(Chapter)2でご確認ください。
卒業研究履修可	卒業研究履修不可	卒業研究履修可(前年度より)	卒業研究単位修得済み	

⑧履修制限

経営学科	S1	来年度「研究ゼミナール2」を履修する事ができません。
	S2	来年度「卒業論文ゼミナール」を履修する事ができません。
商学科	S1	来年度「演習2」を履修する事ができません。
	S2	来年度「演習2」を履修する事ができません。
経済学部	Z	2年次前期終了時までには修得した卒業要件単位が20単位未満の場合は、学科配属が決定されません。(従って、3年次からの「演習1」が履修できません。)

成績問合せ	<p>発表された成績について調査を依頼する（納得できない）場合には、教務課で所定の様式により手続きをしてください。</p> <p>成績発表開始日から所定期間（約 1 週間）以内であれば問合せすることができます。ただし、卒業予定者については、成績発表開始日より所定期間（約 3 日間）まで問合せに応じます。（詳細日程はポータルシステムよりお知らせします。）</p> <p>なお、問合せの根拠（納得できない）理由は、シラバスの「成績評価基準・方法」欄および「成績評価Dに該当する*の基準」欄を参考にして客観的な事実のみを抛りどころとして記述してください。私情を交えた嘆願の文書は受け付けません。</p> <p>電話・メールによる受付はできません。</p>
GPA値 算出方法	<p style="text-align: center;">S(秀)=4、 A(優)=3、 B(良)=2、 C(可)=1</p> $\text{GPA} = \frac{(4 \times \text{Sの修得単位数}) + (3 \times \text{Aの修得単位数}) + (2 \times \text{Bの修得単位数}) + (1 \times \text{Cの修得単位数})}{\text{履修申請した総単位数}}$
平均点 算出方法	<p style="text-align: center;">S=97、 A=85、 B=75、 C=63</p> $\text{平均点} = \frac{(\text{Sの数} \times 97) + (\text{Aの数} \times 85) + (\text{Bの数} \times 75) + (\text{Cの数} \times 63)}{\text{Sの数} + \text{Aの数} + \text{Bの数} + \text{Cの数}}$

## 各種証明書

証明書は、パピルスメイト（証明書自動発行機）で発行するものと、教務課窓口で発行するものがあります。

## パピルスメイト（証明書自動発行機）から発行可能な証明書等

成績証明書	300円	成績表	注) 年間2通まで	無料
卒業見込証明書 ※1	200円	履修登録確認表	注) 年間2通まで	無料
成績・卒業見込証明書	500円	学生旅客運賃割引証（学割証）	注) P3 参照	無料
在学証明書	200円	健康診断書 (当該年度、健康診断受診者に限る)		200円

※1 卒業見込証明書：当該年度に卒業が可能であることを証明するもので、就職活動等に必要です。

・次の条件に該当する場合のみ、4月1日から発行されます。

- (1) 3月末日において、3年以上在学（編入生は1年以上在学し）し、既に卒業要件単位数を充足している。
- (2) 3月末日において、3年以上在学（編入生は1年以上在学し）、新年度に向けて、卒業要件単位数を充足できる履修申請（クラス登録含む）が問題なく完了している。

・履修申請修正期間中において、卒業要件単位数を充足できる履修申請修正を行った場合、翌日から発行が可能となります。

## 【パピルスメイト設置場所および稼働時間】

- ・中央キャンパス：本館（11号館）1階ホール  
月曜日～金曜日 9:00～18:00  
土曜日 9:00～18:00
- ・東部キャンパス：クリスタルテラス1階学生サービスセンター  
月曜日～金曜日 9:00～17:00  
土曜日 9:00～12:30
- ・梅田サテライトキャンパス（大阪駅前第3ビル19階）  
月曜日～金曜日 9:00～22:00  
土曜日 9:00～22:00

証明書自動発行機  
(パピルスメイト)

各種証明書

—注意— 夏期・冬期休暇中は稼働時間を変更します。（掲示、ポータルシステム等でお知らせします。）

## 教務課窓口で発行する証明書等

成績証明書（英文） ※交付まで約1週間を要します。	1,000円	在籍（期間）証明書	200円
		卒業証明書	200円
卒業証明書（英文） ※交付まで約1週間を要します。	1,000円	教員免許状取得見込証明書 ※交付まで約3日を要します。	200円
		調査書（大学院受験用）	500円
在学（籍・籍期間）証明書（英文） ※交付まで約1週間を要します。	1,000円	調査書（学内推薦）	無料
		通学証明書（学生証裏シール）	無料
単位修得見込証明書	300円	学力に関する証明書（単位修得証明書） ※交付まで約1週間を要します。	300円

注) 卒業生は、教務課窓口または郵送で証明書の申込を受け付けます。

詳細は大学ホームページをご確認ください。

各種證明書

# Chapter

# 02

15P  
入学生

15P  
入学生

01. 履修モデル .....	030
02. 卒業要件単位数	
(1) 卒業要件単位数 .....	031
(2) 卒業要件単位数の修得要件 .....	032
03. 履修	
(1) 履修制限 .....	033
(2) 自由科目 .....	034
(3) 資格支援科目について .....	034
(4) 英検及び TOEIC による「コミュニケーション英語」、 「ドイツ語」の単位認定に関して .....	034
(5) 「スポーツ科学実習」について .....	035
04. 卒業研究の履修資格 .....	036
05. 資格取得 .....	038
06. カリキュラム .....	039
07. 資格取得に係わる科目 .....	045





# 01. 履修モデル

(\*)のみ、選択必修それ以外必修科目

1年次で修得するのが望ましい科目		2年次で修得するのが望ましい科目		3年次で修得するのが望ましい科目		4年次で修得するのが望ましい科目	
1年次配当科目		2年次配当科目		3年次配当科目		4年次配当科目	
1セメ (前)	2セメ (後)	3セメ (前)	4セメ (後)	5セメ (前)	6セメ (後)	7セメ (前)	8セメ (後)
コミュニケーション英語1	コミュニケーション英語2	コミュニケーション英語3	コミュニケーション英語4	ゼミナール2	ゼミナール3	卒業研究1	卒業研究2
プロゼミナール(*)	コミュニケーション演習1	コミュニケーション演習2	ゼミナール1				
フィールド演習1	コンピュータ基礎演習2						
コンピュータ基礎演習1	文化環境学概論(*)						
人間環境学概論(*)							
留学生向け科目		留学生向け科目		留学生向け科目		留学生向け科目	
日本事情1	日本事情2	日本事情3	上級日本語3				
日本語1	日本語3	上級日本語1	上級日本語4				
日本語2	日本語4	上級日本語2					

プロゼミナールは、選択科目ですが、4年間の大学生生活をスムーズに送るための重要な支援科目ですので、是非単位修得してください。

1セメでのみ履修することが可能なためプロゼミナールの単位を修得出来なかった場合は、実習科目群のうち、「フィールド演習2」・「フィールド演習3」・「コンピュータ応用演習1」・「コンピュータ応用演習2」から1つ以上の科目を履修し単位修得しなければ卒業資格を得ることができません。

必修科目とは「卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目」のことです。

## 02. 卒業要件単位数

卒業するためには、以下の2つの条件を満たさなければなりません。

①4年以上在学

休学期間は在学年数に含まれません。したがって、半期でも休学すると4年で卒業することができません。

②学科で定められた卒業要件単位124単位以上を修得

カリキュラム上、区分ごとに卒業に必要な単位数が異なります。履修の仕方によっては単位を修得しても卒業要件単位に入らない場合がありますので、注意してください。

### (1) 卒業要件単位数

基本科目	人間環境の基礎		8単位以上	42 単位 以上	124 単位	学士(人間環境学)
	コミュニケーション英語		4単位以上(留学生は要件なし)			
	言語文化		6単位以上(留学生は要件なし)			
	現代社会と文化	10単位以上				
	身体基礎科学					
	日本事情	6単位(留学生のみ)				
日本語	8単位(留学生のみ)					
展開科目	文化コミュニケーション科目		24単位以上	42 単位 以上	124 単位	学士(人間環境学)
	学部共通科目		8単位以上(自由科目8単位を含む)			
実践科目	文化コミュニケーション	フィールド演習	12単位以上	22 単位 以上	124 単位	学士(人間環境学)
		共通科目	コンピュータ演習			
	卒業研究		4単位			
4年以上在学						

注) 基本科目(42単位以上)、展開科目(42単位以上)、実践科目(22単位以上)の要件単位は合計106単位です。卒業要件124単位に不足する18単位については、各科目区分の要件単位を超えて補わないと124単位にはなりません。

**(2) 卒業要件単位の修得要件**

必修科目	「卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目」のことで、カリキュラム表の単位数に○印のついた科目です。
選択必修科目	特定の科目群から指定された単位を必ず修得しなければならない。 (選択必修科目の要件単位を超えた単位は選択科目の単位に入ります。)
選択科目	必修科目および選択必修科目以外の中から自由に選んで修得しなければならない。

**【基本科目】 42 単位以上**

必修科目	「コミュニケーション英語 1、2、3、4」の計 4 科目 4 単位を必ず修得してください。
	留学生は、「日本事情 1、2、3、」、「日本語 1、2、3、4」、 「上級日本語 1、2、3、4」の計 11 科目 14 単位を必ず修得してください。
選択必修科目	「人間環境の基礎」から 8 単位、「言語文化」から 6 単位、 「現代社会と文化」と「身体基礎科学」から合わせて 10 単位、 計 24 単位以上を必ず取得してください。 (選択必修科目の要件単位を超えた単位は選択科目の単位に入ります。)
	留学生は、「人間環境の基礎」から 8 単位、「現代社会と文化」と「身体基礎科学」 から合わせて 4 単位、計 12 単位以上を取得してください。 「言語文化」から単位を取得しなくてもかまいません。 (選択必修科目の要件単位を超えた単位は選択科目の単位に入ります。)
選択科目	必修科目および選択必修科目以外に、14 単位以上 (留学生は 16 単位以上) を修得しなければ、42 単位以上にはなりません。

**【展開科目】 42 単位以上**

選択必修科目	「文化コミュニケーション科目」から 24 単位を必ず修得してください。 「学部共通科目」から 8 単位、計 32 単位以上必ず取得してください。 選択必修科目の要件単位を超えた単位は選択科目の単位に入ります。
選択科目	選択必修科目以外に、10 単位以上を修得しなければ、42 単位以上にはなりません。

**【実践科目】 22 単位以上**

必修科目	「コミュニケーション演習 1、2」、「フィールド演習 1」、「ゼミナール 1、2、3」、 「コンピュータ基礎演習 1、2」、「卒業研究 1,2」の 10 科目 20 単位を必ず取得し てください。
選択科目	必修科目以外に、2 単位以上を修得しなければなりません。 なお、プロゼミナールは 1 セメのみ開講し、再び履修することはできません。

# 03. 履修

## (1) 履修制限

文化コミュニケーション学科には以下の履修制限がありますので、注意してください。

各セメで履修できる単位数	1～6セメスター	最大(教職を除く) 22単位/セメスター:44単位/年間
	7、8セメスター	最大(教職を除く) 24単位/セメスター:48単位/年間
学年(セメスター)による科目の制限	<p>週時間数の数字は、2=週1コマ、4=週2コマ、の授業があることを示します。</p> <p>1年次には、1年次の〔1セメ(前)・2セメ(後)〕</p> <p>2年次には、2年次の〔1セメ(前)・2セメ(後)・3セメ(前)・4セメ(後)〕</p> <p>3年次には、3年次の〔1セメ(前)・2セメ(後)・3セメ(前)・4セメ(後)・5セメ(前)・6セメ(後)〕</p> <p>4年次には、4年次の〔1セメ(前)・2セメ(後)・3セメ(前)・4セメ(後)・5セメ(前)・6セメ(後)・7セメ(前)・8セメ(後)〕の数字のある科目を履修することができます。ただし、履修制限等により履修できない場合もあります。(プロゼミナール)</p>	
その他	既に単位認定を受けた科目を、再度履修することはできません。	

※未開講科目については、ポータルシステムまたは掲示で案内します。

### ※セメスターとは

人間環境学部は、4年間を8セメスターに区分し、各学年の前期を奇数セメスター、後期を偶数セメスターとしています。

	前期	後期
1 回生	1 セメスター	2 セメスター
2 回生	3 セメスター	4 セメスター
3 回生	5 セメスター	6 セメスター
4 回生	7 セメスター	8 セメスター

## (2) 自由科目

他学部（自分の所属する学部以外）および他学科（自分の所属する学科以外）の専門教育科目（人間環境学部は展開科目）を、卒業までに 30 単位まで履修することができます。

そのうち 8 単位までを、展開科目「学部共通科目」の卒業要件単位として算入することができます。

自由科目を履修したい人は、Web シラバスをよく読んで選択してください。

自由科目は、Web 履修申請画面で確認できる（表示されている）科目から選択してください。

## (3) 資格支援科目について

教職関連科目に係わる授業科目について、以下の通り卒業要件単位に算入します。

区分	科目		備考
基本科目	現代社会と分野	教育哲学	これらの教職関連科目は、各セメスターの履修制限を超えて履修できます。 1～6 セメスター 《22 単位 / セメスター：44 単位 / 年間》 以上
		教育心理学	
		道徳教育の理論と方法	
		人権教育	
展開科目	学部共通科目	キャリア教育 生涯学習論	7、8 セメスター 《24 単位 / セメスター：48 単位 / 年間》 以上

その他資格取得に必要な授業科目については、カリキュラム表をご覧ください。

## (4) 英検及び TOEIC による「コミュニケーション英語」、「ドイツ語」の単位認定に関して

英検及び TOEIC の資格によって、「コミュニケーション英語」、「ドイツ語」の単位を以下のように認定する。

単位認定の申請方法

Web 履修申請をした上で、講義に出席してください。

各資格認定書の原本を代表教員に提出してください。確認してコピーを取り返却します。

区分	科目	要する資格	評価の方法
基本科目	コミュニケーション英語 1	英検 2 級または、TOEIC500 点以上	「S」評価を与えます。
	コミュニケーション英語 2		
	コミュニケーション英語 1	英検 1 級または、TOEIC530 点以上	
	コミュニケーション英語 2		
	コミュニケーション英語 3		
	コミュニケーション英語 4		
	ドイツ語 1	ドイツ語検定 4	
	ドイツ語 1	ドイツ語検定 3	
	ドイツ語 2		
	ドイツ語 3		

受講時の注意

出欠席を厳しくとります。英語の場合、1 セメスターで特別な理由なく 4 回欠席した者には単位を与えません。

また 30 分以上の遅刻は出席とみなしません。

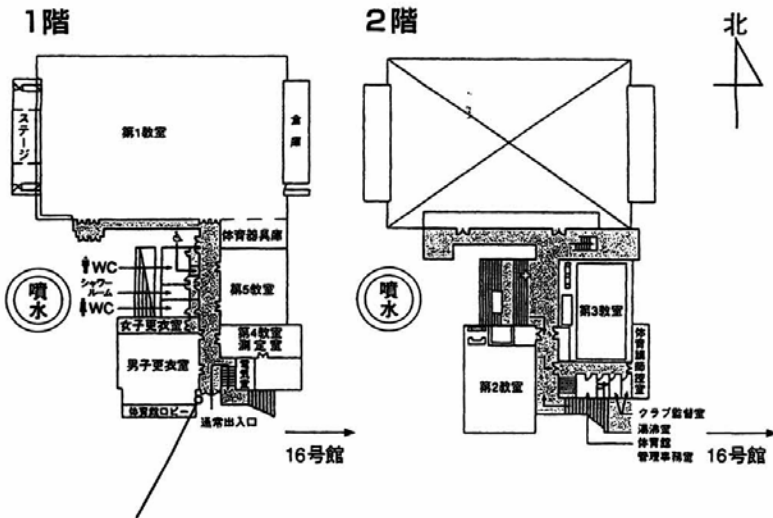
## (5) 「スポーツ科学実習」について

### <受講時の注意>

- ・ 出欠席を厳しくとります。1 Semester 3回までの欠席は認めますが、4回以上欠席した者は不合格となり単位は認定されません。
- ・ 服装は、運動服であれば高校で使用したもので差し支えありません。
- ・ 運動服には、白い布に学籍番号と氏名を書いて左腕と右尻に縫い付けてください。
- ・ 体育館内のコースを受講する学生は、運動靴に赤線を入れて室内専用に使ってください。
- ・ テニスコースを受講する学生は、テニスシューズを使用してください。
- ・ ロッカー使用の場合には、各自指定番号の鍵を使用し、授業時間ごとに借り出し、授業終了後ただちに返却してください。

※本科目の受講の指示は掲示で行いますから、体育館の掲示板を見るよう心掛けてください。

### 総合体育館見取図



体育館掲示板はここにあります。

(教室番号に\*と記載されている場合、実施場所はこの掲示板上で当日指示されます。

指示の無い場合は2階体育講師控室で確認して下さい。)

## 04. 卒業研究の履修資格

下記分野の必修科目です

区分			科目	備考
実践科目	共通科目	卒業研究	卒業研究 1	原則同一教員で履修します。
			卒業研究 2	

「卒業研究 1」履修資格とは、

第 6 セメスター修了して、卒業要件単位の修得が 90 単位以上、そのうち実践科目の卒業要件単位の修得が 7 単位以上であること。

履修資格を満たすと次年度より「卒業研究 1」を履修することができます。

「卒業研究 2」履修資格とは、

「卒業研究 1」を修得していること。

卒業するためには、以下の 2 つの条件を満たさなければなりません。

① 4 年以上在学

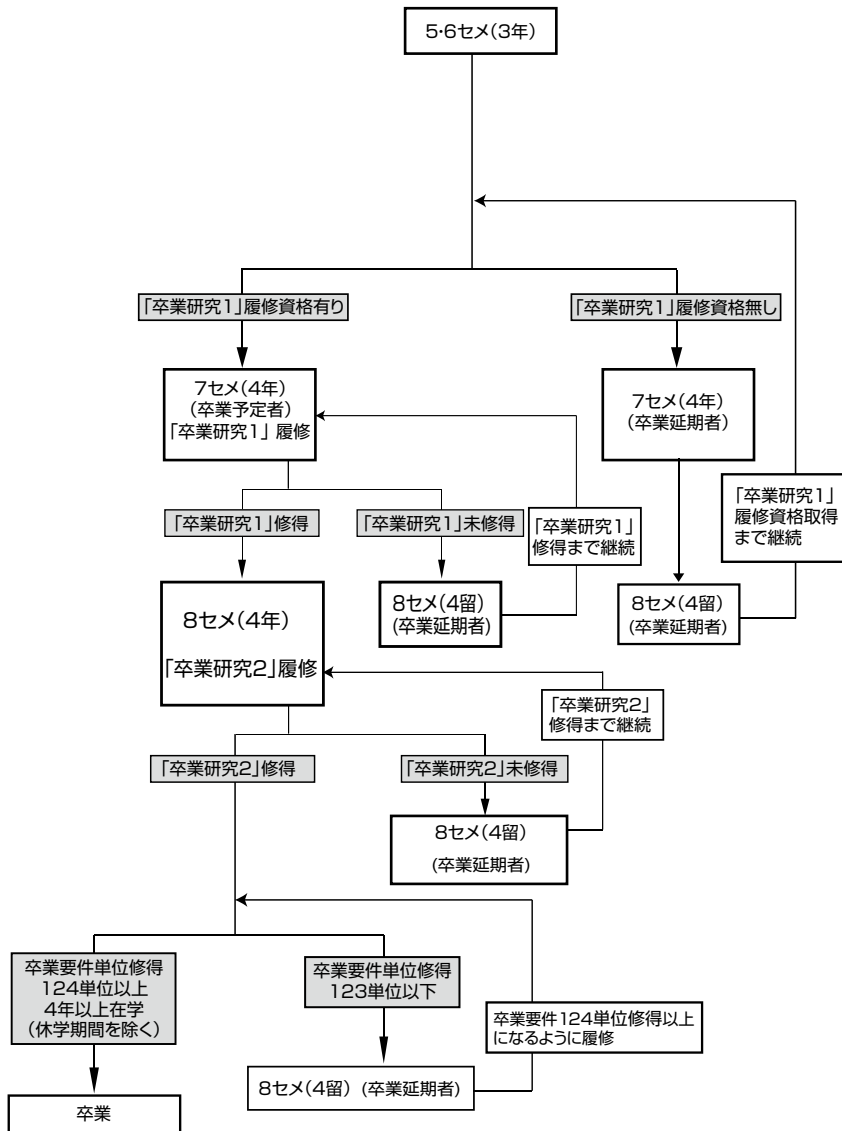
休学期間は在学年数に含まれません。したがって、半期でも休学すると 4 年で卒業することができません。

② 学科で定められた卒業要件単位 124 単位以上を修得

カリキュラム上、区分ごとに卒業に必要な単位数が異なります。履修の仕方によっては単位を修得しても卒業要件単位に入らない場合がありますので、注意してください。

各セメで 履修できる単位数	1～6 セメスター	最大(教職を除く) 22 単位 / セメスター : 44 単位 / 年間
	7、8 セメスター	最大(教職を除く) 24 単位 / セメスター : 48 単位 / 年間

—卒業までの流れ—



※人間環境学部は、休学中も在生学生と同じセメスターに上がります。



## 05. 資格取得

本学在学中や卒業後に取得を目指す資格は以下の通りです。履修コースや履修科目選択の参考にしてください。詳細は担当窓口にお尋ねください。

●・・・国家資格    ○・・・公的・民間資格

### (1) 教員免許状

免許(資格)の種類	必要条件など	担当窓口	カリキュラム詳細
● 高等学校教諭一種免許状(社会)	教職課程の所定科目単位の修得および卒業	教務課	
● 中学校教諭一種免許状(公民)	教職課程の所定科目単位の修得および卒業	教務課	

### (2) 卒業と同時に取得できる資格

免許(資格)の種類	必要条件など	担当窓口	カリキュラム詳細
● 社会福祉主事任用資格	特定科目の修得および卒業	教務課	46ページ

### (3) 在学中にめざしたい資格

免許(資格)の種類	必要条件など	担当窓口	カリキュラム詳細
● 社会教育主事任用資格	・認定要件および所定科目単位の修得 ・1年以上社会教育主事補の職につくこと	教務課	45ページ
● 基本情報技術者試験	経済産業省主催	教育支援センター	
● ITパスポート		教育支援センター	
○ 福祉住環境コーディネータ	所定科目単位の修得	人間環境学部事務室	
○ 秘書技能検定試験	女子学生に限らず、男子学生もおすすめ	教育支援センター	
○ Microsoft Office Specialist2010 (ワード・エクセル・パワーポイント)	ビジネス上で必要とされる Office ソフトのスキルを証明する資格	教育支援センター	

### (4) 進路支援講座

種類	必要条件など	担当窓口	カリキュラム詳細
ボランティア・NPO 講座	所定科目単位の修得	人間環境学部事務室	46ページ

注) 本学独自の講座名称である。

上記の他に、本学では様々な資格取得を支援するための講座を開講しています。詳細は教育支援センターにお尋ねください。

教育支援センター (5号館 1F)



単位数を○でかこんだものは必修科目(卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目)

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数				備 考		
				1年次	2年次	3年次	4年次			
				1セメ、2セメ (前)、(後)	3セメ、4セメ (前)、(後)	5セメ、6セメ (前)、(後)	7セメ、8セメ (前)、(後)			
基 本 科 目	言 語 文 化	ドイツ語 1	2	6 以上 (42 以上) (124)	4				集中	
		ドイツ語 2	2			4				
		ドイツ語 3	2				4			
		ドイツ語 4	2					4		
		ドイツ語海外研修	2				2	2		
		フランス語 1	2			4				
		フランス語 2	2				4			
		フランス語 3	2					4		
		フランス語 4	2							4
		フランス語海外研修	2				2	2		
		中国語 1	2			4				
		中国語 2	2				4			
		中国語 3	2					4		
		中国語 4	2							4
		中国語海外研修	2				2	2		
		朝鮮語 1	2			4				
		朝鮮語 2	2				4			
		朝鮮語 3	2					4		
朝鮮語 4	2					4				
朝鮮語海外研修	2			2	2					

単位数を○でかこんだものは必修科目(卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目)

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週時間数				備考			
				1年次	2年次	3年次	4年次				
				1セ×12セ× (前) (後)	3セ×4セ× (前) (後)	5セ×6セ× (前) (後)	7セ×8セ× (前) (後)				
基 本 科 目	環境思想史	2	10以上 (42以上)	2				※イ			
	日本文化史	2		2							
	平和学	2		2							
	宗教と人間	2		2							
	日本と西洋	2		2							
	日本と中国	2		2							
	日本と韓国・朝鮮	2		2							
	日本国憲法	2		2							
	世界の政治	2		2							
	文化人類学	2		2							
	都市と農村	2		2							
	民族とマイノリティ	2			2				※イ ※ロ		
	ジェンダー論	2			2						
	心理学概論	2			2						
	スポーツの歴史	2		2							
	社会とボランティア	2		2			※イ・ハ				
	ボランティア活動支援演習1	2		2			集中／※ハ				
	ボランティア活動支援演習2	2			2		集中／※ハ				
	ボランティア・インターシップ	2			2		集中／※イ・ハ				
	基礎 科学	スポーツ科学実習1	1		2						
スポーツ科学実習2		1		2							
日本 事情	日本事情 1	②		2			留学生向け科目				
	日本事情 2	②		2			留学生向け科目				
	日本事情 3	②			2		留学生向け科目				
日本 語	日本語 1	①	8	2				留学生向け科目			
	日本語 2	①		2				留学生向け科目			
	日本語 3	①			2			留学生向け科目			
	日本語 4	①			2			留学生向け科目			
	上級日本語 1	①				2		留学生向け科目			
	上級日本語 2	①				2		留学生向け科目			
	上級日本語 3	①					2	留学生向け科目			
	上級日本語 4	①					2	留学生向け科目			
小計		142	42以上	52	62	44	36	2	2	0	0

入学生  
15p

## (2) 展開科目

単位数を○でかこんだものは必修科目(卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目)

区分	科目	単位	最低単位数	卒業資格	週 時 間 数				備 考			
					1年次	2年次	3年次	4年次				
					1セメ(前)	2セメ(後)	3セメ(前)	4セメ(後)		5セメ(前)	6セメ(後)	7セメ(前)
展開科目	人間存在論	2	24以上 42以上 (124)				2			※イ ※イ		
	宗教環境論	2						2				
	生命倫理	2						2				
	日本文化論	2					2					
	中国文化論	2					2					
	韓国・朝鮮文化論	2					2					
	ヨーロッパ文化論	2					2					
	英米文化論	2					2					
	比較文化論	2						2				
	伝統文化論	2						2				
	メディア文化論	2						2				
	大衆文化論	2						2				
	生活文化論	2						2				
	コミュニケーション論	2							2			
	比較社会論	2							2			
	アジア近代史	2									2	
	社会変動論	2							2			
	西洋近代史	2									2	
	都市と風土	2										2
	文章表現論	2										2
	心身医療概論	2									2	
	交流分析	2										2
	サプリメント総論	2										2
	発達心理学	2									2	
	心理学研究法	2									2	
	健康心理学	2										2
現代社会と法	2							2				

15P 入学生

単位数を○でかこんだものは必修科目(卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目)

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数				備 考			
				1年次	2年次	3年次	4年次				
				1セメ'2セメ (前) (後)	3セメ'4セメ (前) (後)	5セメ'6セメ (前) (後)	7セメ'8セメ (前) (後)				
展 開 共 通 科 目	文化と環境	環境倫理	2		2				※イ		
		環境教育論	2			2					
		都市地理学	2				2				
		都市の歴史	2		2						
		観光論	2				2				
		環境心理学	2			2					
		学習心理学	2		2						
		ボランティアマネジメント論	2		2						
	経済社会と環境	文化社会学	2				2		※イ・ハ ※イ		
		環境社会学	2		2						
		環境法	2			2					
		環境経済学	2		2						
		情報倫理	2		2						
		社会福祉論	2			2					
		健康と環境	医学一般	2	8以上 (42以上) (124)	2					※イ・ロ ※ロ ※ロ
			精神医学	2			2				
	精神保健論		2			2					
	運動指導の心理学		2			2					
	環境衛生学		2				2				
	スポーツ文化論		2					2			
	健康栄養論		2			2					
	健康運動プログラム論		2				2				
	キャリア教育	生涯学習論	2			2				教職課程科目/※イ ※イ ※イ ※イ ※イ	
		生涯学習特論	2			2					
社会教育計画1		2		2							
社会教育計画2		2		2							
社会教育課題研究1		2		2							
社会教育課題研究2		2		2							
特別講義A		2		2							
特別講義B		2		2							
小 計		116	42以上	0   0		32   42	28   12	2   0			

入学生  
15P

### (3) 実践科目

単位数を○でかこんだものは必修科目(卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目)

区分	科目	単位	卒業資格最低単位数	週 時 間 数				備 考		
				1年次	2年次	3年次	4年次			
				1セメ、2セメ(前)、(後)	3セメ、4セメ(前)、(後)	5セメ、6セメ(前)、(後)	7セメ、8セメ(前)、(後)			
実践科目	文化コミュニケーション フィールド演習	プロゼミナール	2	12(必修を含む)以上 22以上 (124)	2				1年次のみ履修	
		コミュニケーション演習1	②		2					
		コミュニケーション演習2	②			2				
		フィールド演習1	②		6					
		フィールド演習2	2			6				
		フィールド演習3	2				6			
		ゼミナール1	②				2			
		ゼミナール2	②				2			
		ゼミナール3	②					2		
	共通科目 コンピュータ演習	コンピュータ基礎演習1	②	4(必修を含む)以下	4					
		コンピュータ基礎演習2	②		4					
		コンピュータ応用演習1	2			4				
		コンピュータ応用演習2	2				4			
	卒業研究	卒業研究1	②	4				4		(4)
		卒業研究2	②					(4)		4
小 計		30	22以上	12、6	12、6	8、2	4、4			
基本科目、展開科目、実践科目合計		288	124	64、68	90、82	38、16	6、4			

#### 注) 履修要件および資格支援科目について

- イ 別に定める教職関連科目に係わる授業科目のうち、「教育哲学」、「教育心理学」、「道徳教育の理論と方法」および「人権教育」の各科目は、履修し修得した単位を、基本科目区分の現代社会と文化分野の卒業要件単位に組み入れることができる。
- ロ 留学生の基本科目区分の履修要件については、次のとおりとする。
  - (1) コミュニケーション英語分野については、すべての科目を選択科目として取り扱い、卒業要件最低単位の条件を除外する。
  - (2) 言語文化分野については、すべての科目を選択科目として取り扱い、卒業要件最低単位の条件を除外する。ただし、母語を履修することができない。
  - (3) 日本事情分野については、すべての科目を必修科目とし、現代社会と文化分野および身体基礎科学分野を含めて、10単位以上を卒業要件最低単位とする。
  - (4) 日本語分野については、すべての科目を必修科目として取り扱う。
- ハ 資格支援科目に係わる備考欄中の表記は、次のとおりとする。
  - (1) ※イは、別に定める「社会教育主事」の資格取得に係わる科目
  - (2) ※ロは、別に定める「社会福祉主事」の資格取得に係わる科目
  - (3) ※ハは、別に定める「ボランティア・NPO講座」に係わる科目

# 07. 資格取得に係わる科目

## 【資格取得に係わる科目】

### イ. 社会教育主事

社会教育主事となる資格を得ようとする者は、社会教育法第9条の4に定めるところにより、次の科目を履修しなければならない。

授 業 科 目	単 位	最低修得単位数	週 時 間 数				備 考				
			1年次	2年次	3年次	4年次					
			1セメ、2セメ (前) ; (後)	3セメ、4セメ (前) ; (後)	5セメ、6セメ (前) ; (後)	7セメ、8セメ (前) ; (後)					
生涯学習論	②	24		2			※				
生涯学習特論	②			2			※				
社会教育計画 1	②			2			※				
社会教育計画 2	②			2			※				
社会教育課題研究 1	②			2			※				
社会教育課題研究 2	②			2			※				
社会教育特講I (現代社会と社会教育)	環境教育論		2			2		※			
	社会福祉論		2			2		※			
	ジェンダー論		2		2			※			
	人権教育		2		2			※			
社会教育特講II (社会教育活動・事業・施設)	道德教育の理論と方法		2		2			※			
	ボランティアマネジメント論		2		2			※			
	社会とボランティア	2	2				※				
社会教育特講III (その他必要な科目)	ボランティア・インターンシップ	2		2			※				
	宗教と人間	2		2			※				
	コミュニケーション論	2			2		※				
	文化社会学	2			2		※				
	比較社会論	2			2		※				
	教育心理学	2	2				※				
	教育哲学	2		2			※				
教育方法論	2		2			※					
合 計	42	24	4	6	10	12	8	2	0	0	

注) 1.履修方法について

イ 単位数を○でかこんだ12単位を、必修科目とする。

ロ 選択科目を12単位とし、科目分野の社会教育特講I、社会教育特講IIおよび社会教育特講IIIの各分野にわたって履修することが望ましい。

2.備考欄中の※印は、当該学科の卒業要件単位に算入される科目



## ロ. 社会福祉主事

社会福祉主事となる資格を得ようとする者は、社会福祉法第19条の定めるところにより、次の科目を履修しなければならない。

授 業 科 目	単 位	最低 修得 単位数	週 時 間 数								備 考	
			1年次		2年次		3年次		4年次			
			1セメ (前)	2セメ (後)	3セメ (前)	4セメ (後)	5セメ (前)	6セメ (後)	7セメ (前)	8セメ (後)		
社 会 福 祉 論	2	6					2					※
精 神 医 学	2						2					※□
経 済 学 の 基 礎	2			2								※
心 理 学 概 論	2			2								※
社 会 学 の 基 礎	2			2								※
医 学 一 般	2				2							※□
公 衆 衛 生 学	2					2					△□	
合 計	14	6	0	6	2	0	6	0	0	0		

注) 1.履修については、3科目6単位を修得すること。

2.備考欄中の※印は、当該学科の卒業要件単位に算入される科目

3.備考欄中の△印は、当該学科の自由科目として、卒業要件単位に算入される科目

## ハ. ボランティア・NPO講座

本学独自の資格である。ボランティア活動に興味がある学生に対して、次の科目のすべての単位を修得すれば認定される。将来NPO活動やボランティア活動を通して社会活動に貢献したい学生にはお勧めである。

授 業 科 目	単 位	最低 修得 単位数	週 時 間 数								備 考	
			1年次		2年次		3年次		4年次			
			1セメ (前)	2セメ (後)	3セメ (前)	4セメ (後)	5セメ (前)	6セメ (後)	7セメ (前)	8セメ (後)		
社 会 と ボ ラ ン テ ィ ア	2	10	2									※
ボ ラ ン テ ィ ア マ ネ ジ ム ン ト 論	2			2								※
ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 支 援 演 習 1	2			2								※(集中)
ボ ラ ン テ ィ ア 活 動 支 援 演 習 2	2				2							※(集中)
ボ ラ ン テ ィ ア ・ イ ン タ ー ン シ ッ プ	2				2							※(集中)
合 計	10	10	2	0	6	2	0	0	0	0	0	

注) 備考欄中の※印は、当該学科の卒業要件単位に算入される科目



# Chapter

# 03

## 13P 編入生

01. 履修モデル .....	050
02. 卒業要件単位数	
(1) 卒業要件単位数 .....	050
(2) 卒業要件単位数の修得要件 .....	051
03. 履修	
(1) 履修制限 .....	052
(2) 自由科目 .....	053
04. 卒業研究の履修資格 .....	053
05. カリキュラム .....	055

「資格取得」については P38 をご覧ください。

「資格取得に係わる科目」については P45 をご覧ください。



# 01. 履修モデル

(\*)のみ選択必修それ以外必修科目

3年次で修得するのが望ましい科目		4年次で修得するのが望ましい科目	
3年次配当科目		4年次配当科目	
5セメ (前)	6セメ (後)	7セメ (前)	8セメ (後)
ゼミナール2 コミュニケーション演習2 コンピュータ基礎演習1(*) 人間環境学概論(*)	ゼミナール3 コミュニケーション演習1 コンピュータ基礎演習2(*) 文化環境学概論(*)	卒業研究1	卒業研究2
留学生向け科目		留学生向け科目	
上級日本語 1 上級日本語 2	上級日本語 3 上級日本語 4		

必修科目とは「卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目」の事です。

## 02. 卒業要件単位数

### (1) 卒業要件単位数

卒業するためには、以下の要領で基本科目 4 単位（留学生は 8 単位）以上、展開科目 36 単位以上、実践科目 14 単位以上、計 62 単位を修得しなければなりません。

基本科目	人間環境の基礎		4単位以上	4単位以上 (留学生は 8単位以上)	62単位 学士(人間環境学)
	日本語(留学生のみ)	「上級日本語1・2・3・4」必修	4単位		
展開科目	文化コミュニケーション科目		24単位以上	36単位 以上	
	学部共通科目	(自由科目4単位を含む)	12単位以上		
実践科目	フィールド演習	「コミュニケーション演習1・2」 「ゼミナール2・3」必修	8単位以上	14単位 以上	
	コンピュータ演習		2単位以上		
	卒業研究	「卒業研究1・2」必修	4単位		

## (2) 卒業要件単位の修得要件

必修科目	「卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目」のことで、カリキュラム表の単位数に○印のついた科目です。
選択必修科目	特定の科目群から指定された単位を必ず修得しなければならない。選択必修科目の要件単位を超えた単位は選択科目の単位に入ります。
選択科目	必修科目、選択必修科目以外の中から自由に選んで修得しなければならない。

### 【基本科目】 4単位（留学生は8単位）以上

必修科目 (留学生のみ)	「上級日本語1、2、3、4」の計4科目4単位を必ず修得してください。
選択必修科目	「人間環境の基礎」から4単位以上を必ず取得してください。

### 【展開科目】 36単位以上

選択必修科目	「文化コミュニケーション科目」から24単位以上を必ず修得してください。 「学部共通科目」から12単位以上、計36単位以上必ず取得してください。
--------	--

### 【実践科目】 14単位以上

必修科目	「コミュニケーション演習1、2」、「ゼミナール2、3」、「卒業研究1、2」の6科目12単位を必ず取得してください。
選択必修科目	必修科目以外に、「コンピュータ演習」2単位以上を修得しなければなりません。

注) 【基本科目】4単位（留学生は8単位）以上、【展開科目】36単位以上、【実践科目】14単位以上の合計単位は54単位（留学生は58単位）です。

卒業要件62単位に不足する8単位（留学生は4単位）については、各区分の要件単位を超えないと62単位にはなりません。

# 03. 履修

## (1) 履修制限

文化コミュニケーション学科には以下の履修制限がありますので、注意してください。

各セメで履修できる単位数	5,6セメスター	最大(教職を除く) 22単位/セメスター:44単位/年間
	7,8セメスター	最大(教職を除く) 24単位/セメスター:48単位/年間
学年(セメスター)による科目の制限	<p>週時間数の数字は、2=週1コマ、4=週2コマ、の授業があることを示します。</p> <p>1年次には、1年次の〔1セメ(前)・2セメ(後)〕          2年次には、2年次の〔1セメ(前)・2セメ(後)・3セメ(前)・4セメ(後)〕          3年次には、3年次の〔1セメ(前)・2セメ(後)・3セメ(前)・4セメ(後)・5セメ(前)・6セメ(後)〕          4年次には、4年次の〔1セメ(前)・2セメ(後)・3セメ(前)・4セメ(後)・5セメ(前)・6セメ(後)・7セメ(前)・8セメ(後)〕の数字のある科目を履修することができます。          ただし、履修制限等により履修できない場合があります。</p>	
その他	既に単位認定を受けた科目を、再度履修することはできません。	

## その他の注意事項

下記の科目は履修しても卒業要件単位に算入しません。

区分		科目	備考	
基本科目	コミュニケーション英語	全て カリキュラム単位欄 □と有るもの	卒業要件単位には参入しません	
	言語文化			
	現代社会と文化			
	身体基礎科学			
	日本事情			
日本語	日本語 1	日本語 1 日本語 2 日本語 3 日本語 4		
	日本語 2			
日本語 3				
日本語 4				
実践科目	文化コミュニケーション	フィールド演習		プロゼミナール フィールド演習 1

## ※セメスターとは

人間環境学部は、4年間で8セメスターに区分し、各学年の前期を奇数セメスター、後期を偶数セメスターとしています。

	前期	後期
3 回生	5 セメスター	6 セメスター
4 回生	7 セメスター	8 セメスター

## (2) 自由科目

他学部(自分の所属する学部以外)および他学科(自分の所属する学科以外)の専門教育科目(人間環境学部は展開科目)を、卒業までに30単位まで履修することができます。編入生は、単位を修得した自由科目のうち、4単位までを展開科目「学部共通科目」の卒業要件単位として算入することができます。

自由科目を履修したい人は、Webシラバスをよく読んで選択してください。

自由科目は、Web履修申請画面で確認できる(表示されている)科目から選択してください。

# 04. 卒業研究の履修資格

下記分野の必修科目です

区分			科目	備考
実践科目	共通科目	卒業研究	卒業研究 1	原則同一教員で履修します。
			卒業研究 2	

「卒業研究 1」履修資格とは、

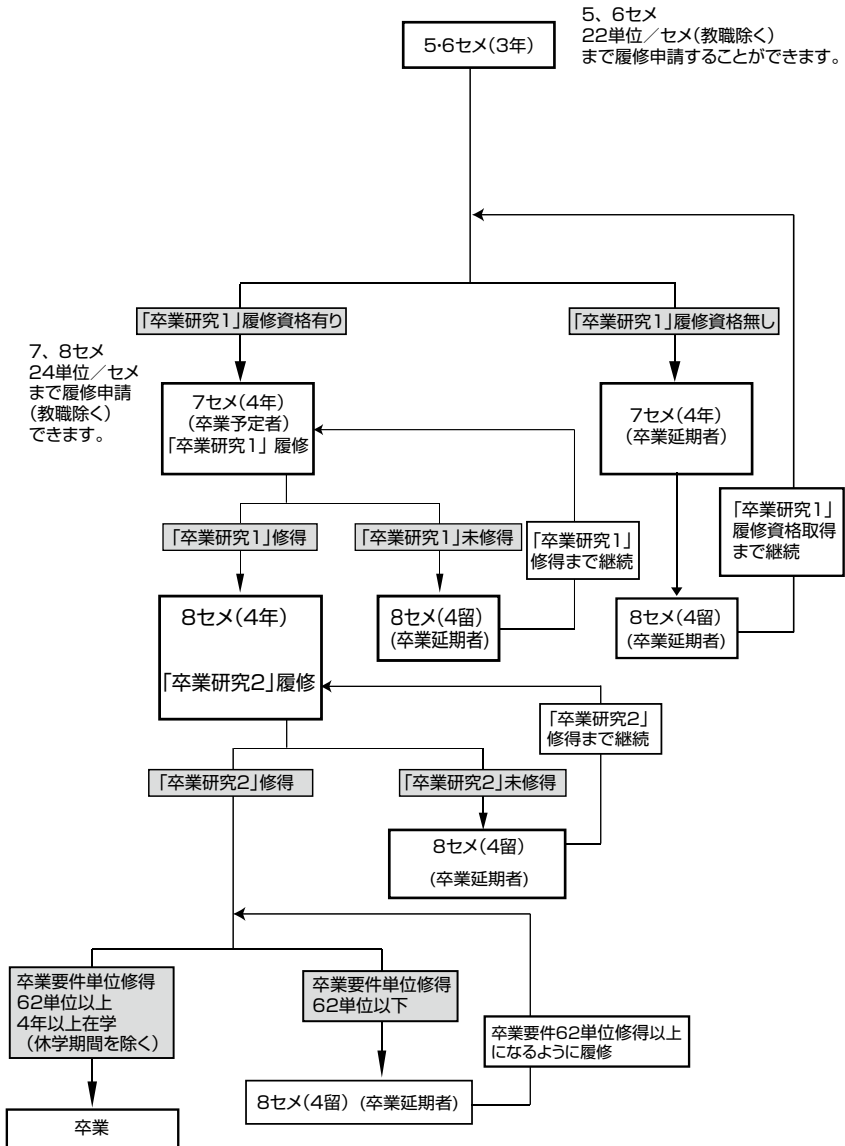
第 6 セメスター修了して、卒業要件単位の修得が 28 単位以上であること。  
履修資格を満たすと次年度より「卒業研究 1」を履修することができます。

「卒業研究 2」履修資格とは、

「卒業研究 1」を修得していること。



—卒業までの流れ—



※人間環境学部は、休学中も在生と同じセメスターに上がります。

# 06.カリキュラム

## (1) 基本科目

注) 編入生の卒業要件単位は62単位です。

単位数を「○」でかこんだものは必修科目(卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目)

「-」と有るものは、履修しても卒業要件単位に算入しません。

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数				備 考			
				1年次	2年次	3年次	4年次				
				1セメ(前) 2セメ(後)	3セメ(前) 4セメ(後)	5セメ(前) 6セメ(後)	7セメ(前) 8セメ(後)				
基 本 科 目	人間環境学概論	2	4以上	62	2						
	文化環境学概論	2				2					
	身体環境学概論	2			2						
	生活環境学概論	2				2					
	経済学の基礎	2				2					※□
	社会学の基礎	2				2					※□
	歴史学の基礎	2			2						
	健康管理の基礎	2			2						
	身体科学の基礎	2			2						
	心理学の基礎	2				2					
	体育学の基礎	2				2					
	データ処理の基礎	2			2						
	化学の基礎	2			2						
	生物学の基礎	2			2						
	コンピュータの基礎	2	2								
	コミュニケーション英語1	-			2					留学生は選択科目	
	コミュニケーション英語2	-			2					留学生は選択科目	
	コミュニケーション英語3	-				2				留学生は選択科目	
	コミュニケーション英語4	-					2			留学生は選択科目	
	アドヴァンスト英語1	-			2						
アドヴァンスト英語2	-				2						
アドヴァンスト英語3	-					2					
アドヴァンスト英語4	-						2				
アドヴァンスト英語5	-							2			
アドヴァンスト英語6	-								2		
英語海外研修	-									集中	

週時間数の数字は、2=週1コマ、4=週2コマ、の授業があることを示します。

1年次には、1年次の〔1セメ(前)・2セメ(後)〕

2年次には、2年次の〔1セメ(前)・2セメ(後)・3セメ(前)・4セメ(後)〕

3年次には、3年次の〔1セメ(前)・2セメ(後)・3セメ(前)・4セメ(後)・5セメ(前)・6セメ(後)〕

4年次には、4年次の〔1セメ(前)・2セメ(後)・3セメ(前)・4セメ(後)・5セメ(前)・6セメ(後)〕

・7セメ(前)・8セメ(後)〕の数字のある科目を履修することができます。

ただし、履修制限等により履修できない場合もあります。

注) 時間セメスターが異なる場合は時間割を優先。

単位数を「○」でかこんだものは必修科目（卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目）  
「-」と有るものは、履修しても卒業要件単位に算入しません。

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数				備 考	
				1年次	2年次	3年次	4年次		
				1セメ、2セメ (前)、(後)	3セメ、4セメ (前)、(後)	5セメ、6セメ (前)、(後)	7セメ、8セメ (前)、(後)		
基 本 科 目	言 語 文 化	ドイツ語 1	-	(1) (62)	4				集中
		ドイツ語 2	-		4				
		ドイツ語 3	-			4			
		ドイツ語 4	-				4		
		ドイツ語海外研修	-				2	2	
		フランス語 1	-		4				
		フランス語 2	-			4			
		フランス語 3	-				4		
		フランス語 4	-					4	
		フランス語海外研修	-				2	2	
		中国語 1	-		4				
		中国語 2	-			4			
		中国語 3	-				4		
		中国語 4	-					4	
		中国語海外研修	-				2	2	
		朝鮮語 1	-		4				
		朝鮮語 2	-			4			
		朝鮮語 3	-				4		
朝鮮語 4	-				4				
朝鮮語海外研修	-			2	2				



## (2) 展開科目

単位数を「○」でかこんだものは必修科目(卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目)  
「-」と有るものは、履修しても卒業要件単位に算入しません。

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数								備 考		
				1年次		2年次		3年次		4年次				
				1セメ (前)	2セメ (後)	3セメ (前)	4セメ (後)	5セメ (前)	6セメ (後)	7セメ (前)	8セメ (後)			
展 開 科 目	人間存在論	2	24 以上 36 以上 (62)					2						
	宗教環境論	2							2					
	生命倫理	2						2						
	日本文化論	2				2								
	中国文化論	2				2								
	韓国・朝鮮文化論	2				2								
	ヨーロッパ文化論	2				2								
	英米文化論	2				2								
	比較文化論	2					2							
	伝統文化論	2					2							
	メディア文化論	2					2							
	大衆文化論	2					2							
	生活文化論	2					2							
	コミュニケーション論	2						2						※イ
	比較社会論	2						2						※イ
	アジア近代史	2							2					
	社会変動論	2					2							
	西洋近代史	2						2						
	都市と風土	2							2					
	文章表現論	2							2					
	心身医療概論	2							2					
	交流分析	2								2				
	サプリメント総論	2								2				
	発達心理学	2						2						
心理学研究法	2					2								
健康心理学	2						2							
現代社会と法	2							2						

編  
入  
生  
13  
P

単位数を「○」でかこんだものは必修科目（卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目）  
「-」と有るものは、履修しても卒業要件単位に算入しません。

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数				備 考			
				1年次	2年次	3年次	4年次				
				1セメ×2セメ (前) ; (後)	3セメ×4セメ (前) ; (後)	5セメ×6セメ (前) ; (後)	7セメ×8セメ (前) ; (後)				
展 開 科 目	文化と環境	環境倫理	2		2				※イ		
		環境教育論	2			2					
		都市地理学	2				2				
		都市の歴史	2		2						
		観光論	2				2				
		環境心理学	2			2					
		学習心理学	2		2						
		ボランティアマネジメント論	2		2						
	経済社会と環境	文化社会学	2				2		※イ・ハ ※イ		
		環境社会学	2		2						
		環境法	2			2					
		環境経済学	2		2						
		情報倫理	2		2						
		社会福祉論	2			2					
		健康と環境	医学一般	2	12以上 (36以上) (62)	2					※イ・ロ ※ロ ※ロ
			精神医学	2			2				
			精神保健論	2			2				
			運動指導の心理学	2			2				
	環境衛生学		2				2				
	スポーツ文化論		2					2			
	健康栄養論		2			2					
	健康運動プログラム論		2				2				
	キャリア教育	生涯学習論	2		2				教職課程科目／※イ ※イ ※イ ※イ ※イ		
		生涯学習特論	2		2						
社会教育計画1		2		2							
社会教育計画2		2		2							
社会教育課題研究1		2		2							
社会教育課題研究2		2		2							
特別講義A		2		2							
特別講義B		2		2							
小 計			36以上								

編  
入  
生  
13  
P

### (3) 実践科目

単位数を「○」でかこんだものは必修科目（卒業までに必ず単位を修得しなければならない科目）  
「-」と有るものは、履修しても卒業要件単位に算入しません。

区分	科目	単位	卒業資格 最低単位数	週 時 間 数				備 考		
				1年次	2年次	3年次	4年次			
				1セメ(前) 2セメ(後)	3セメ(前) 4セメ(後)	5セメ(前) 6セメ(後)	7セメ(前) 8セメ(後)			
実践科目	文化コミュニケーション フィールド演習	プロゼミナール	-	8(必修を含む)以上 14以上 (62)	2					
		コミュニケーション演習1	②		2					
		コミュニケーション演習2	②			2				
		フィールド演習1	-		6					
		フィールド演習2	2			6				
		フィールド演習3	2				6			
		ゼミナール1	2				2			
		ゼミナール2	②				2			
		ゼミナール3	②					2		
	共通科目	コンピュータ演習	コンピュータ基礎演習1	2	2以上	4				
			コンピュータ基礎演習2	2		4				
			コンピュータ応用演習1	2			4			
			コンピュータ応用演習2	2				4		
		卒業研究	卒業研究1	②	4				4 (4)	
	卒業研究2	②				(4)	4			
小 計			14以上							
基本科目、展開科目、実践科目合計				62						

#### 注) 履修要件および資格支援科目について

- イ 別に定める教職関連科目に係わる授業科目のうち、「教育哲学」、「教育心理学」、「道德教育の理論と方法」および「人権教育」の各科目は、履修し修得した単位を、基本科目区分の現代社会と文化分野の卒業要件単位に組み入れることができる。
- ロ 留学生の基本科目区分の履修要件については、次のとおりとする。  
日本語分野については、「上級日本語1、2、3、4」を必修科目として取り扱う。
- ハ 資格支援科目に係わる備考欄中の表記は、次のとおりとする。
  - (1)※イは、別に定める「社会教育主事」の資格取得に係わる科目
  - (2)※ロは、別に定める「社会福祉主事」の資格取得に係わる科目
  - (3)※ハは、別に定める「ボランティア・NPO講座」に係わる科目

編  
入  
生 13  
P